

平成 29 年 度

**小・中学校における
租税教育実践報告**

仙台南地区租税教育推進協議会



発刊にあたって

仙台南地区租税教育推進協議会長
岩沼市教育委員会
教育長 百井 崇

本年度における「仙台南地区租税教育推進協議会」の主な事業が過日山下地域交流センターにて行われた租税教育に関する研究発表会を最後に、滞りなく終了しました。関係各位の皆様にご心より御礼申し上げます。

さて、東日本大震災から7年が経ちました。当協議会の会員である2市2町もそれぞれ順調に復興が進んでおり、児童生徒の生活もほぼ震災以前に戻ってきています。このような状況において本協議会の学校における租税教育の果たす役割は非常に大きいものがあります。復興の原動力は被災住民ですが、それを支える財源は税金であり、復興を国全体で支えてきたこととなります。被災地としては、感謝あるのみです。

学校では、児童生徒の自立、他者との連携、社会参加、などに主体的に対応できるようにするため、政治的教養を育む教育、社会参画に関する教育、そして租税に関する教育など多くの取組をしております。

当協議会も、租税教育を通して社会への理解、社会参加を促してまいりました。このような中、11月15日に山下地域交流センターにおいて、名取市立閑上小学校、岩沼市立岩沼小学校、亘理町立荒浜中学校、山元町立山下小学校の4校の実践発表会を開催し、それぞれの学校の取組を学び合うことができました。

4校の児童生徒が租税の意義や役割を正しく理解するのにふさわしいテーマでした。このような取組を通して児童生徒が租税の意義を理解することができました。租税教育の取組を通じて、国の主体は自分たちであるという自覚を育てるのに有意義であったと思います。発表された4校の先生方に感謝申し上げます。

本書には、この4校の実践例が要約した形で掲載されております。是非、4市町のそれぞれの学校で租税教育推進の一助にいただければ幸いです。

最後になりますが、これまで発刊に向けご尽力いただきました仙台南税務署の皆様のご配慮、さらには現場の先生方や税務関係者の方々のご支援に心から感謝申し上げます、挨拶いたします。

平成30年3月

目 次

1	仙台南地区租税教育推進協議会のあゆみ	1
2	平成29年度 租税教育推進協議会の主な活動状況	3
3	平成29年度 租税教育研究発表要項（順不同・敬称略）	
(1)	「第6学年社会科学習として行う租税教育のあり方一考察」	11
	名取市立 関上小学校 教諭 菅原 さとみ	
(2)	「税の意義や役割を理解し、政治参加に対する意欲を高める指導の工夫」.....	29
	～税金の使い道について考えさせる活動を通して～	
	岩沼市立 岩沼小学校 教諭 三澤 恵	
(3)	「租税への関心を高めるための指導法の工夫」.....	35
	～学び合いを取り入れた指導を通して～	
	亘理町立 荒浜中学校 教諭 小鴨 幸生	
(4)	「税に対する興味・関心を高め、税への理解を深める指導の工夫」.....	45
	～主体的に課題を設定し、自ら調べる活動を通して～	
	山元町立 山下小学校 教諭 森 大地	
(参考資料)	租税教育実践発表一覧	61
	平成29年度 仙台南地区租税教育推進協議会 役員名簿	67

1 仙台南地区租税教育推進協議会のあゆみ

(1) 設 立

この会は、仙台南地区の税務及び教育関係者が協力して、児童・生徒並びに社会人に対する租税教育を推進し、納税道義の高揚に必要な事項について協議し、また、連絡協調を図ることを目的としている。

当協議会は、昭和62年3月25日の設立準備委員会を経て、次の機関構成をもって、昭和62年5月25日に設立されている。

(2) 構成機関

構 成 機 関 名	
教 育 関 係 機 関	税 務 関 係 機 関
宮城県教育庁仙台教育事務所 名取市教育委員会 岩沼市教育委員会 亘理町教育委員会 山元町教育委員会 各地区校長会	仙台南税務関係団体協議会 宮城県仙台南県税事務所 名取市役所 岩沼市役所 亘理町役場 山元町役場 仙台南税務署

(3) 事業内容

- イ 租税教育の計画策定
- ロ 児童・生徒の租税教育に関する座談会及び研究発表会の開催
- ハ 租税教室の開催
- ニ 税に関する作品募集の支援
- ホ 小・中学校における租税教育実践報告書の作成
- ヘ 租税教育用教材の提供
- ト 税を考える週間行事への協力

(4) 歴代会長

初代	昭和62年5月25日	～	平成元年6月13日	岩沼市教育委員会	教育長	遠藤	幸四郎
2代	平成元年6月13日	～	平成5年6月1日	名取市教育委員会	教育長	佐々木	健
3代	平成5年6月1日	～	平成8年10月15日	山元町教育委員会	教育長	菅野	丈治
4代	平成8年10月15日	～	平成13年6月8日	亶理町教育委員会	教育長	三品	堯明
5代	平成13年6月8日	～	平成14年12月31日	岩沼市教育委員会	教育長	砂金	勲
6代	平成15年1月1日	～	平成15年6月10日	岩沼市教育委員会	教育長	影山	一郎
7代	平成15年6月10日	～	平成16年9月30日	名取市教育委員会	教育長	太田	洋一
8代	平成16年10月1日	～	平成17年6月2日	名取市教育委員会	教育長	阿部	哲男
9代	平成17年6月2日	～	平成19年3月31日	山元町教育委員会	教育長	佐々木	陽一郎
10代	平成19年5月10日	～	平成19年6月1日	山元町教育委員会	教育長	横山	俊二
11代	平成19年6月1日	～	平成21年6月1日	亶理町教育委員会	教育長	鈴木	光範
12代	平成21年6月1日	～	平成23年6月24日	岩沼市教育委員会	教育長	影山	一郎
13代	平成23年6月24日	～	平成25年6月20日	名取市教育委員会	教育長	丸山	春夫
14代	平成25年6月20日	～	平成27年6月26日	山元町教育委員会	教育長	森	憲一
15代	平成27年6月26日	～	平成29年6月28日	亶理町教育委員会	教育長	岩城	敏夫
16代	平成29年6月28日	～		岩沼市教育委員会	教育長	百井	崇

2 平成29年度 租税教育推進協議会の主な活動状況

○ 児童・生徒の租税教育に関する座談会

(内容) 研究発表会に向け、児童・生徒の租税教育に直接携わっている教員同士の意見交換を分科会方式で実施した。

年 月 日	平成29年 8 月 23 日 (水)
場 所	名取市役所
出 席 者	仙台南地区租税教育推進協議会役員 教育関係者・関係民間団体・税務関係官庁 平成28年度、平成29年度、平成30年度研究発表 (予定) 校

○ 児童・生徒の租税教育に関する研究発表会

(内容) 研究発表指定校の教員が、租税教育に関する研究内容を発表した。

年 月 日	平成29年11月15日(水)
場 所	山下地域交流センター
発 表 者	名取市立 関上小学校 教諭 菅原 さとみ 岩沼市立 岩沼小学校 教諭 三 澤 恵 亘理町立 荒浜中学校 教諭 小 鴨 幸生 山元町立 山下小学校 教諭 森 大 地

児童・生徒の租税教育に関する座談会

開催日 平成29年8月23日(水)
開催場所 名取市役所



会長あいさつ:岩沼市教育委員会
高橋 弘昭 教育次長



顧問あいさつ:仙台南税務署
佐々木 伸 署長



座長:岩沼市教育委員会
佐藤 修司 学校教育課長



経験談発表:名取市立下増田小学校
手塚 英海 教諭



経験談発表:亶理町立 長瀨小学校
(現 山元町立 山下小学校)
武田 清美 教諭



副会長あいさつ:仙台南税務署
千葉 治彦 副署長



第一分科会



第二分科会



第三分科会



座談会 会場

租税教育に関する研究発表会

開催日 平成29年11月15日(水)
開催場所 山下地域交流センター



会長あいさつ:岩沼市教育委員会
百井 崇 教育長



祝辞:山元町
武田 健久 副町長



発表:名取市立 関上小学校
菅原 さとみ 教諭



発表:岩沼市立 岩沼小学校
三澤 恵 教諭



発表:亘理町立 荒浜中学校
小嶋 幸生 教諭



発表:山元町立 山下小学校
森 大地 教諭



講評: 仙台教育事務所
佐藤 秀克 主幹(指導主事)



感謝状贈呈



記念品贈呈: 仙台南間税会



研究発表会 会場

平成29年度 租税教育に関する研究発表者

開催日 平成29年11月15日(水)

開催場所 山下地域交流センター



名取市立 閑上小学校

教諭 菅原 さとみ

「第6学年社会科学習として行う租税教育のあり方一考察」



岩沼市立 岩沼小学校

教諭 三 澤 恵

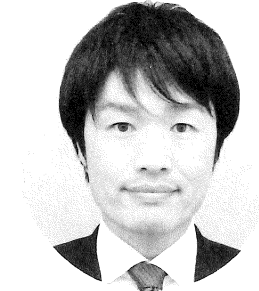
「税の意義や役割を理解し、政治参加に対する意欲を高める指導の工夫」
～税金の使い道について考えさせる活動を通して～



亘理町立 荒浜中学校

教諭 小 嶋 幸 生

「租税への関心を高めるための指導法の工夫」
～学び合いを取り入れた指導を通して～



山元町立 山下小学校

教諭 森 大 地

「税に対する興味・関心を高め、税への理解を深める指導の工夫」
～主体的に課題を設定し、自ら調べる活動を通して～

1 研究主題

第6学年社会科学学習として行う租税教育のあり方—考察

2 主題設定の理由

平成28年6月に施行された公職選挙法改正で、選挙権が18歳に引き下げられ、学校教育における主権者教育の指導の必要性がこれまで以上に求められている。政治の働きを理解し、主権者として判断し、投票行動するという現在の民主政治を計画的に指導することが求められている。租税は、政治の働きの根幹の一つであり、納税は国民の義務の一つである。小学校においても、児童が政治の働きを理解するために、身近な社会事象を取り上げ、租税について知り、政治の働きに関心をもてるよう指導計画に位置付けられている。

具体的には、第6学年社会科の内容に政治の働きとして、国会などの議会政治や選挙の意味などとともに租税の役割について取り扱うことになっている。第6学年社会科の指導計画では、大単元「わたしたちの生活と政治」（19時間扱い）の中で、3つの小単元の1つとして「子育て支援の願いを実現する政治」（7時間扱い）が位置付けられている。この小単元では、市民の要望を受け、市役所が計画案・予算案の作成、市議会での議決をへて実現するという一連の流れの中で、租税を取り上げる計画となっている。しかし、租税の役割を知る学習としては、十分とは言えず、指導計画を工夫する必要がある。

そこで、本研究では、社会科指導計画に租税教育の内容を位置付け、実践したいと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

第6学年児童が租税に関心をもち、租税の役割を主体的に理解しようと取り組む社会科学学習のあり方を探る。

4 研究方法

- (1) 社会科年間指導計画を見直し、租税を取り扱う指導計画を位置付け、授業実践を行い考察する。
- (2) 租税を学習する内容として有効に関連付けが図られているのか考察する。

5 研究計画

- 7月 租税教育計画立案
- 8月 実態調査
- 9月 指導計画立案, 実践授業 (2時間扱い)
- 10月 考察, 研究のまとめ

6 研究概要

- (1) 児童の実態 (6年1組 男13名, 女6名, 計19名)

実態調査の結果については、次のとおりである。(平成29年9月1日実施)

- ア 実態調査
- (ア) ねらい

本研究において実施する租税教育の有効性を考察するため、第6学年児童に租税に関する意識調査を行い、指導の有効性を考察する。

(イ) 調査内容と方法 (調査対象は本校第6学年児童19名)

①調査内容

- ・税金について考えた内容
- ・租税や税金(税)という用語を知っているか。

②調査方法 記述式 租税学習アンケート(資料1)

③考察の基準

- ・税金に関する記述数
- ・国民の義務、政治の働きに関する記述数

イ 調査結果と考察

回答15名(4名欠席)結果は以下のとおりである。(資料2)

設問1 租税ということばを聞いたことがありますか。

ある：2名、ない：13名

設問2 税金ということばを聞いたことがありますか。

ある：13名、ない：2名

設問3 知っている税金の名前を書いてください。

回答：3名、無回答：12名

回答1：消費税、住人税

回答2：しゃきん

回答3：消費税

設問4 税金は 何のためにあると思いますか。考えを書いてください。

回答：9名、無回答、6名

類型1：国をよくする、国のため、県のため、市のため等 4名

類型2：何かあげる、税金をあげる、支援のお金等 4名

類型3：建物をつくるため 1名

設問5 税金について、国民として、考えたこと、感じたことを書いてください。

回答：4名、無回答11名

回答1：税金は何であるのか気になります。あるとないでは何が違うのか。

回答2：税金でお金が高くなったりするので、税金はいらないと思う。

回答3：安倍総理などは、私たちの税金を使って長々と話をしているのを知って、そういう風に使うのかと思った。

回答4：ちょっと高い。

設問1、設問2、設問3の回答から、税金ということばは、知っているが、税金がどのようなものか理解していないことがわかる。

設問4の回答からは、漠然と公共のために使われているとらえていることがわかる。

設問5の回答からは、回答数が少ないことから税金を身近にとらえていないことが分かる。

調査結果から、これまでの学習や生活の中で、税金ということばは聞いたことがあるが、どのようなものか知ったり、考えたりした経験がないことが分かった。租税についてはことばとしても聞く機会が少なかつたものと考えられる。

児童は、社会科で単元「天皇中心の国づくり」において、律令とともに人々は、

租・調・庸といった税を納めること、役所や寺を建てたり、都や九州を守る兵士の役を務めていたりしたことなどを学習している。この後、年貢も用語として学習しているが、租税と結び付けてとらえきれていない。それぞれの時代の為政者が政治を行うための財源として、租税（租・調・庸や賦役など）を人々に課していたことをとらえることができれば、現在の租税（税金）をより身近なこととしてとらえ、考えることができるものとする。

(2) 租税教育指導計画

授業は、社会科として取り扱う。指導計画は以下のとおり。

月	教科等	指導名	時数	指導内容
	社会	(歴史学習)		歴史学習の中で、各時代の租税について意識化を図る。
		(事前調査)		税について事前調査を行う
9月		租税って何？	1	租税（税金）について話し合う
		納税は義務？	1	納税義務について話し合う
1月	社会	子育て支援の願いを実現する政治	7	市議会の働きとして、「市の予算や税金を決める」を知る。

本研究で、社会科として加えている指導時数は、9月に実施する「租税って何？」「納税は義務？」各1時間とする。

1月に実施する「子育て支援の願いを実現する政治」は、社会科として計画されている指導内容である。(7時間扱い)

(3) 実践概要

ア 実践授業 9月22日(金)実施 (資料3)

(ア) 本時の学習課題

納税と国民の義務を考えよう

(イ) 本時のねらい

政治を行う財源として租税があり、国民には納税義務が課せられていることを知り、納税する国民は、どのように権利を行使すべきか考える。

(ウ) 指導にあたって

前時では、現在の租税が、様々な公共サービス等を国や地方公共団体が行うため、国民みんなで負担している税金であり、社会で生活していくための会費のようなものであることを確認している。また、平成29年度名取市予算案に位置付けられている財源から、税金の種類について調べている。

本時は、国民の「健康で豊かな生活」を実現するために国や地方公共団体が公共サービス等を行うため、納税が必要であること考え、納税義務についてまとめていく。さらに、納税義務から生まれる国民の権利について取り上げ、納税者の権利とは何かを考える。税金を無駄にしてほしくない、望む公共サービスが実現してほしいなどの意見を期待したい。


大切な税金の使い方を国民一人一人が考え、実現するために与えられている権利を考え、主権者としての意識を高めていきたい。ここでは、期待したい公共サービスを考えること、市広報などで与えられる情報を見ることの大切さや予算案を立案する首長や議決する議員などを選んでるのが選挙で

あることを確認する。本時では租税の役割とは何かを考えるきっかけとした。


本時の評価は、「政治を行う財源として租税（税金）があることを理解できたか」「納税義務が課せられている国民には、権利があることを理解できた」の2点とする。学習の振り返りとして、実態調査で使用した調査用紙を使用し、設問4「税金は何のためにあると思いますか」設問5「税金について、国民として考えたことを、感じたこと」への記述で評価する。

(エ) 授業の様子

課題1について

学習活動と発問	児童の反応
<p>「必ず税金を納めなければならないのか」</p> <p>T税金を必ず納めなければならないのですか。</p> <p>T違う考えの人はいますか。</p> <p>T税金を必ず納めなければならないとまとめます。</p> <p>○納税義務＝国民の義務として、板書しまとめる。</p>	<p>C1払わないといけない。</p> <p>C2払わないとだめだと思う。</p> <p>(挙手なし)</p> <p>(全員賛成)</p> 

課題2について その1

学習活動と発問	児童の反応
<p>「税金を納める人の権利はないのか」</p> <p>T税金を納める人は、税金を取られるだけですか。納める人の権利はないのですか。</p> <p>T班で話し合います。</p> <p>始め。</p>	<p>C1なくてもいいと思う。</p> <p>C2あってもなくてもいいと思う。</p> <p>(ワークシートに考えを書く)</p> 

その2 班ごとの話し合いの様子

学習活動と発問	児童の反応
<p>T (班の話し合いを見守る)</p> <p>権利はなくてもいいと話している班には、次のように声をかけた。</p> <p>(税金を取られるだけでいいの？勝手に使われちゃうよ)</p>	<p>C1税金を納める人は自分で使わないのかな</p> <p>C2地域の復興が進むからなくていいんじゃないの。</p> <p>C3権利はあると思う。</p> <p>C4政治で投票すると思う。</p> <p>C5あってもなくてもいいんじゃないの。</p>



その3 話し合ったことを確認している様子

学習活動と発問	児童の反応
T話し合ったことを発表しよう。 (順に代表者が発表する)	C 1 あってもなくてもいいと思う。 C 2 国がよくなるからなくていいと思う。 C 3 政治で投票すると思う。 C 4 権利はあると思う。
T税金を納めている人の権利をまとめます。	
税金は、国や県、市などの会費 みんなで使い方を考えるものです。 使い方を考えている人は、総理大臣、知事、市長 使い方を話し合い決定している人は、議員（国会議員、県議会議員、市議会議員） 税金を納めている人の権利は、使い方をチェックする 〃 市長、知事、議員を選ぶ	

(オ) 考察

実践授業の考察は、学習指導案に位置付けた評価で考察した。評価項目と基準は次のとおりである。

評価①政治を行う財源として租税（税金）があることを理解できたか。

評価②納税義務が課せられている国民には、権利があることを理解できたか。

評価は、学習後に振り返りとして、租税学習調査用紙の記述で行う。評価基準はA：十分に目標を達成できた B：ほぼ目標に達成できた C：目標に達成できていないとし、具体的には次のとおりとする。

設問4「税金は何のためにあると思いますか」（評価①について）

- ①公共財や住民サービスのための経費，社会の会費など
社会生活をよりよくするため これに類似した表記 : A
- ②よい国をつくるため 国・県・市などの予算のため
など①にいたらない表記 : B
- ③上記以外の表記で本時の学習に無関係なもの : C

設問5「税金について、国民として考えたことを、感じたこと」

(評価②について)

- ①納税義務を負うために税金の使われ方をチェックすることが大切
議会でどのように予算を立てているのか見ておくことが大切
自分の考えに近い首長や議員を選ぶようにする
など主権者としての行動が表記 : A

②住民サービスのため税金は大切，納税義務

納税義務に関する表記

: B

③ ①と②以外の表記

: C

	評価内容	設問	基準	人数
評価①	政治を行う財源として租税(税金)があることを理解できたか。	税金は 何のためにあると思いますか。	A	5
			B	11
			C	1
評価②	納税義務が課せられている国民には、権利があることを理解できた。	税金について、国民として、考えたこと、感じたことを書いてください。	A	0
			B	12
			C	5

上記の結果から，評価①については，ねらいを達成できたと評価できる。評価②については，ほぼ達成できたと評価できるものの，国民の権利として，税金の使われ方を知り，チェックすることや国会や地方自治体における首長や議員をそれぞれ選挙で意思を現すことについては課題が残る。これからの歴史学習や単元「子育て支援の願いを実現する政治」に関連付けて学習を構成することで，ねらいに迫っていきたい。(資料4)

使用した資料は，調べる学習に活用できたと言えるが，精選する必要を感じた。

イ 租税学習調査

児童の実態と学習の評価として，租税学習についての調査用紙を作成し，使用した。調査は，次の3回取り組んだ。

①9月 1日実施：実態調査（実施前）

②9月20日実施：歴史学習の中で「租税」に関する用語と結び付けた指導後

③9月22日実施：租税学習後

(人)

	調査日	9 / 1	9 / 2 0	9 / 2 2	備 考
設 問		15	15	17	調査人数
1 租税(そぜい)ということばを聞いたことがありますか。		2	13	17	
2 税金(ぜいきん)ということばを聞いたことがあります。		13	14	17	
3 知っている税金の名前を書いてください。		2	3	16	

調査結果から，用語「租税」については，9/20の調査で回答が13名と増えていることから，租・調・庸や年貢などが，租税であり，今は，税金として納めていると指導することで，用語をとらえることに一定の成果があると言える。

税金の種類については，租税についての学習前に調査した9/1，9/20と学習後の9/22の結果から具体的な学習経験が必要であることが分かる。「租税って何？」(実践授業1/2)の学習後の感想に，「とん税ってなんだろう」「税金の種類って多い」などの回答があり興味・関心が高まったと言える。今回2時間扱いの学習構成ではあるが，一定の成果があったものとする。

(資料5)

7 研究のまとめ

実践をとおして、成果と課題を次のようにまとめることができる。

成果として、

- ① 2時間扱いの租税学習構成で、一定の成果が見られる。
- ② 歴史学習と関連を図ることで、租税や税を理解しやすくなる可能性がある。
- ③ 明治以降の学習内容の一つ近代国家の形成について、理解しやすくなる可能性がある。
- ④ 政治の仕組みを取り扱う学習と関連付けが図られ、社会科の学習内容として租税教育を位置付けることができると言える。

一方、課題として

- ア 納税義務のほか、国民の権利として政治への参画については、この実践では成果が見られなかった。歴史学習を生かした実践や他の単元との関連を図り、指導を工夫する必要がある。
- イ 今回調査した内容から明確にはないが、児童の会話から、家庭で政治の話題が少ないように感じた。学級で時事の話題に触れることができるよう指導を工夫する必要がある。

参考資料

租税教育の事例集～租税教育の充実に向けて～平成 27 年 4 月発行

平成 28 年度 小・中学校における租税教育実践事例（仙台南地区租税教育推進協議会）

29年 月 日 () 6年1組 番 名前_____

1 ^{そせい} 租税 ということばを聞いたことがありますか。

当てはまるほうに○をつけてください。

ある・ない

2 ^{ぜいきん} 税金 ということばを聞いたことがあります。

当てはまるほうに○をつけてください。

ある・ない

3 知っている税金の名前を書いてください。

4 税金は 何のためにあると思いますか。考えを書いてください。

(聞いたことがない人も考えて、書いてみよう)

5 税金について、国民として、考えたこと、感じたことを書いてください。

		租税	税金	税金種類	税金なんのため	考えたこと
1	女	×	○		税金のお金で国民になんかあげる	税金は何であるのか気になります。あるとないでは何がちうのか。
2	男	×	○			
3	男	×	○			
4	男	○	○	消費税, 住人税		
5	男	×	×			
6	男	×	×	しゃきん		
7	男	欠				
8	男	○	○	消費税	日本の国を良くするため	税金でお金が高くなったりするので、ぼくは税金をいらないと思う。
9	男	×	○			
10	女	×	○		国をつくるため	ちょっと高い
11	女	×	○		国のため, 市のため, 県のため	安倍総理などは, 私たちの税金を使って長々と話をしているというのを聞いて, そういう風に使うのかと思った。
12	女	×	○		お金のない人に税金をあげるため	
13	男	欠				
14	女	×	○		国のため	
15	男	×	○		支援のお金のこと	
16	男	×	○		お金をため, 建物をつくったりするため	
17	女	欠				
18	男	×	○		お金を使わなくなるようなため	
19	男	欠				
	○	2	13			
	×	13	2			
	欠席	4				

(資料3)

第6学年1組 租税教育学習指導案

平成29年9月22日(金)

3校時 場所：教室

指導者 名取市立閉上小学校

教諭 菅原 さとみ

1 単元名 租税(税金)について考えよう

2 単元について

(1) 教材観

租税教育は、平成23年12月、文部科学省から出された租税教育の充実に関する通知を受け、租税教育に取り組んでいる。その多くは、総合的な学習の時間における実践が多く見られている。平成28年、第8回租税教育推進関係省庁等協議会総会における合意確認事項には、平成28年6月に施行された公職選挙法改正で、選挙権年齢が引き下げられ、主権者教育の重要性がより高まり、関係する教科等における取組が求められている。

小学校学習指導要領解説社会編第6学年の内容(2)イとして、「国会などの議会政治や選挙の意味、国会と内閣と裁判所の三権相互の関連、国民の司法参加、租税の役割などについても扱うようにすること」とあり、議会政治の働きと関連付けながら、租税の役割扱うように位置付けがなされている。さらに、租税の役割については、「国や県、市によって行われている社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などに必要な費用は租税によってまかなわれていること、それらは国民によって納められていることなどを理解し、租税が大切な役割を果たしていることを考えることができるようにする。」とある。

本校の社会科年間指導計画では、大単元「わたしたちの生活と政治」(19時間扱い)の中で、構成している3つの小単元の1つとして「子育て支援の願いを実現する政治」(7時間扱い)を位置付け、市民の要望を受け、市役所が計画案・予算案の作成、市議会での議決をへて実現するという一連の流れの中で、租税の役割を取り扱う計画となっている。児童が租税の役割を知る学習としては、指導を工夫する必要があると言える。

そこで、本単元「租税(税金)について考えよう」を設定する。本単元を行う前には、歴史学習を行い、為政者が行ってきた様々な政治の財源として、租税があったことに気付かせる。特に、小単元「3人の武将と天下統一」「江戸幕府と政治の安定」においては、鉄砲隊を組織、強大な権力、城作りのために莫大な資金と労力を得るため、楽市楽座や堺の支配、身分制度など租税を課すための支配と政治システムがあったことや年貢も租税であったことを考える上で適した小単元である。

次に、本単元で租税について考える。経済活動が発展している現在、物による租税から、税金により政治の財源が確保されていることを取り上げる。政治と租税の関わりがあることが理解できるものとする。

政治と租税の関わりを意識した上で、江戸時代以降の歴史、近代国家について学習することで、近代国家をつくるということ、国を豊かにするということが、租税と関連付けて考えることで、社会事象の見方や考え方を身に付けることができる。ま

た、歴史の事象を多角的多面的にとらえることができる。本単元を加えることで、「私たちの生活と政治」の学習において、租税の役割を政治と結び付けて考えることが容易となると考える。

(2) 児童観 (男13名, 女6名, 計19名)

租税や税金について、意識調査を行った。(回答15名, 4名欠席) 結果は以下のとおりである。

設問1 租税ということばを聞いたことがありますか。ある: 2名, ない: 13名

設問2 税金ということばを聞いたことがあります。ある: 13名, ない: 2名

設問3 知っている税金の名前を書いてください。回答: 3名, 無回答: 12名

回答1: 消費税, 住人税

回答2: しゃきん

回答3: 消費税

設問4 税金は 何のためにあると思いますか。考えを書いてください。

回答: 9名, 無回答, 6名

類型1: 国をよくする, 国のため, 県のため, 市のため等 4名

類型2: 何かあげる, 税金をあげる, 支援のお金等 4名

類型3: 建物をつくるため 1名

設問5 税金について、国民として、考えたこと、感じたことを書いてください。

回答: 4名, 無回答11名

回答1: 税金は何であるのか気になります。あるとないでは何がちがうのか。

回答2: 税金でお金が高くなったりするので、税金はいらないと思う。

回答3: 安倍総理などは、私たちの税金を使って長々と話をしているというのを聞いて、そういう風に使うのかと思った。

設問1, 設問2, 設問3の回答から、税金ということばは、知っているが、税金がどのようなものか結びついていないことがわかる。

設問4の回答からは、漠然と公共のために使われていると考えるが、それ以上のことはわからないものと言える。

設問5の回答からは、回答数が少ないことから税金を身近にとらえていないことが分かる。

調査結果から、これまでの学習や生活の中で、税金ということばは聞いたことがあるが、どのようなものか知ったり、考えたりした経験がないことが分かった。租税についてはことばとしても聞く機会が少なかったものとする。

児童は、社会科で単元「天皇中心の国づくり」において、律令とともに人々は、租・調・庸といった税を納めること、役所や寺を建てたり、都や九州を守る兵士の役を務めていたりしたことなどを学習している。この後、年貢も用語として学習しているが、租税と結び付けて指導していないこともあり、関連付けてとらえていない。それぞれの時代の為政者が政治を行うための財源として、租税(租・調・庸や賦役など)を人々に課していたことをとらえることができれば、現在の租税(税金)をより身近なこととしてとらえ、考えることができるものとする。

(3) 指導にあたって

本単元を学習する前、小单元「3人の武将と天下統一」「江戸幕府と政治の安定」の学習において、為政者が、租庸調や年貢、労役などの租税を領民に課していたことで強い権力がもて、支配していたことに気付かせる。また、為政者が、政治の安定のため、安定した租税を課すため、領地の安定を求めたり、より広い領地を獲得しようとしたことなども考えさせる。

本单元（2時間扱い）では、租税や税金ということばから、租税について調べる。

第1時は、政治を行うための財源は、租税であることについて確かめ、現在の租税は税金と呼ばれ、様々な種類があることを調べる。ここでは、国税、地方税（県税、市町村税）に分かれ、地方公共団体の財源となっていること、所得税、消費税など税の種類がたくさんあることなど大まかにつかませたい。また、国や地方公共団体はそれぞれに納付された税金などを財源に政治を行っていることをつかませたい。

第2時は、納税と国民の義務について考える。納税義務のほか、納税者の権利という視点で考えさせたい。このことにより主権者という意識が育まれるものとする。

このように租税を考える学習をとおして、社会事象を多面的多角的に考える経験を取り入れ、ものの見方や考え方を育てていく。また、主権者という意識を高めたい。

3 単元目標

平成29年度名取市予算から租税（税金）について調べ、国税や地方税があり地方公共団体の財源になっていることを知る。また、国や地方公共団体の政治を行うためには、納税が国民の義務となっていることを確かめ、国民の義務と権利について考える。

4 指導計画 全2時間扱い

時間	小单元名	主な学習活動
(社会科 時数)	「3人の武将と天下統一」 「江戸幕府と政治の安定」	織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の働きや代表的な文化遺産を通して、戦国の世が統一されたこと、参勤交代や農民統制、鎖国、身分制度が確立して武士による政治が安定したことが分かる。租税と権力について考える。
1	租税（税金）について考えよう	・政治をするため財源について考える。 ・租税（税金）について調べる。
2 本時	納税と国民の義務を考える	・納税するという義務を考える。 ・納税者の権利について考える。

5 本時の学習 2/2

(1) 本時の学習課題

納税と国民の義務を考えよう

(2) 本時のねらい

政治を行う財源として租税があり、国民には納税義務が課せられていることを知

り、納税する国民は、どのように権利を行使すべきか考える。

(3) 指導にあたって

前時では、現在の租税が、様々な公共サービス等を国や地方公共団体が行うため、国民みんなで負担している税金であり、社会で生活していくための会費のようなものであることを確認している。また、平成29年度名取市予算案に位置付けられている財源から、税金の種類について調べている。

本時は、国民の「健康で豊かな生活」を実現するために国や地方公共団体が公共サービス等を行うため、納税が必要であること考え、納税義務についてまとめていく。さらに、納税義務から生まれる国民の権利について取り上げ、納税者の権利とは何かを考える。税金を無駄にしてほしくない、望む公共サービスが実現してほしいなどの意見が予想される。

大切な税金の使い方を国民一人一人が考え、実現するために与えられている権利を考え、主権者としての意識を高めていきたい。ここでは、期待したい公共サービスを考えること、市広報などで与えられる情報を見ることの大切さや予算案を立案する首長や議決する議員などを選んでいるのが選挙であることを確認する。本時では租税の役割とは何かを考えるきっかけとしたい。

本時の評価は、「政治を行う財源として租税(税金)があることを理解できたか」「納税義務が課せられている国民には、権利があることを理解できた」の2点とする。学習の振り返りとして、実態調査で使用した調査用紙を使用し、設問4「税金は何のためにあると思いますか」設問5「税金について、国民として考えたことを、感じたこと」への記述で評価する。評価基準は、(5) 評価に記述する。

(4) 準備物

資料：広報なとり4月(名取市HP)、平成29年度宮城県予算概要(県HP)

租税体系、都道府県税、市町村税(総務庁HP)

朝日小学生新聞2017年8月7日号

わたしたちの暮らしと税金 平成29年度版 宮城県租税教育推進協議会

(5) 学習過程

段階	主な学習活動	予想される児童の反応	支援等
確かめる 5分	・前時を振り返る。 ・納税の意味を確かめる。 1 本時の学習を確かめる。	1-1「税金を納める人の権利を考えよう」	・現在の租税は、税金で、国税と地方税に分けられること、消費税、所得税などがあること、社会の会費として税金を納めていることを納税ということを振り返る。

<p>考える</p>	<p>2 納税（税金を納める）をしなくてもよいのかを考える。</p> <p>○納税義務＝国民の義務として、まとめる。</p> <p>3 納税者に権利はないのかを考える。</p>	<p>2-1「税金を払わなくてもいいのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・払いたくないが、払わないといけない。 <p>2-2 払わなかったらどうなるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察に捕まると思う。 ・法律で決まっていると思う。 ・年貢と同じだ。 ・今は、税金の使い方を話し合っているから違う。 ・取られるのは一緒だ。 ・みんなのために使うものだから義務だと思う。 <p>2-3 納税は国民の義務だね。税金は、住民サービスに使うため納める。納税は国民の義務。</p> <p>3-1 国民は、納税の義務を負うだけなのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・払わない権利でもあるのか。 ・権利なんてないんじゃないの ・文句は言えると思う。 ・議員に文句言えばいいんじゃないか ・議員なればいいんじゃないの <p>3-2 納税者にも権利があるが、払わない権利ではない。</p> <p>○税金の使い方をチェックする。</p> <p>○自分の考えに近い首長や議員を選ぶ。</p>	<p>◎はじめに、納税しなくてもよいのかを話し合い、納税義務について考える。</p> <p>◎年貢は、為政者に搾取されたままだが、税金は、公共サービス等を受けるための財源をみんなで納めていることに気付かせたい。</p> <p>◎未納、脱税に関わる発言が予想される。ここでは、名取市の予算について触れ、財源が不足することで住民サービスが計画的にできないことに気付かせる。</p> <p>◎納税義務とまとめるが、社会の会費という押さえができるよう年貢との違いを確認させたい。</p> <p>◎納税者の権利に触れることで、主権者の意識を高め、搾取されるだけの封建政治との違いに気付かせたい。</p> <p>◎税金の使い方を議会で決定することについては、本時のねらいではないが、必要に応じて触れることとする。</p>
<p>35分</p>	<p>○納税者の権利をまとめる。</p>	<p>納税者の権利を次の2点にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税金の使われ方をチェックする ・そのため、選挙権が約束されていること 	<p>納税者の権利を次の2点にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税金の使われ方をチェックする ・そのため、選挙権が約束されていること

まとめ 5分	4 学習を振り返る。	・振り返りをカードに記入する。	◎次の2つについて触れる。 ・納税義務だけでは、年貢を搾取されていることと同じであること ・税金の使われ方を広報誌で確かめることや自分の考え方に近い首長や議員を選べること
-----------	------------	-----------------	---

(6) 板書計画

<p>めあて 税金を納める人の権利を考えよう</p> <p>課題1 必ず税金をおなめなければ ならないのか</p> <p>課題2 税金を納める人の権利はな いのか</p>	<p>課題について</p> <p>1 税金を必ずおなめなければなら ない(納税義務)</p> <p>2 使い方をチェックする 市長・知事を選ぶ 議員を選ぶ</p> <p>まとめ 税金の使われ方をチェックす ることが納税者の権利(義務)</p>
---	---

(7) 評価

- ①政治を行う財源として租税(税金)があることを理解できたか。
- ②納税義務が課せられている国民には、権利があることを理解できた。

学習の終末に振り返りカードへ記入させる。評価は、その記述で行う。評価基準は
A:十分に目標を達成できた B:ほぼ目標に達成できた C:目標に達成できてい
ないとし、具体的には次のとおりとする。

設問4「税金は何のためにあると思いますか」

- ①公共財や住民サービスのための経費、社会の会費など
社会生活をよりよくするため これに類似した表記 : A
- ②よい国をつくるため 国・県・市などの予算のため など
①にいたらない表記 : B
- ③上記以外の表記で本時の学習に無関係なもの : C

設問5「税金について、国民として考えたことを、感じたこと」

- ①納税義務を負うために税金の使われ方をチェックすることが大切
議会でどのように予算を立てているのか見ておくことが大切
自分の考えに近い首長や議員を選ぶようにする
など主権者としての行動が表記 : A
- ②住民サービスのため税金は大切、納税義務
納税義務に関する表記 : B
- ③①と②以外の表記 : C

実践授業評価

(資料4)

設問	1	2	3	4	評価者			5	評価者					
					1	2	3		1	2	3			
		租税	税金	税金種類	税金なんのため			評価	考えたこと			評価		
1	女	○	○	消費税, とん税, 関税	国のため			B B B	B	生活の中でたくさん税金を払っていることが分かった。			C B B	B
2	男	○	○	とん税, 特別とん税, 消費税, ふるさと納税, たばこ税	世界の人が働かなくならないためにある			C B C	C	税金が大切だとわかりました。それに僕らが払った税金が国のためになっていることもわかりました。			B B B	B
3	男	○	○	とん税, 特別とん税, たばこ税, たばこ特別税, 消費税, 酒税, 関税	町などの整備などに使うため			A A A	A	税をもう少し少なくしたり, 値段を安くしてほしい			C C B	C
4	男	○	○	消費税, 関税, 住民税, たばこ税, とん税, 自動車税, 自転車税	納めた税金で道を舗装したり, 公共施設をつくったりする。いわば, 国民生活を便利にするため			A A A	A	税金は高く嫌と思うこともありましたが, 自分の役に立っているため, 租税はやはり大切だと思いました。			B B A	B
5	男	○	○	消費税, 租税	国や町をよくするためにあります			B B B	B	税金は, 国や町をよくするためにあるんだな。あと税金は大事なんだと感じました。			B B B	B
6	男	○	○	とん税, たばこ税, 関税, 特別とん税, 酒税, 納税, ゴルフ場利用税	生活を快適にしたりするため (生活を支える)			B A A	A	どうしてもどんどん食べ物やその消費税を増やしていくのかなと思いました。			C C B	C
7	男	○	○	国税, とん税, 関税, 酒税, 自動車税, 狩猟税, ゴルフ場利用税, 消費税	生活を支えたり, 学校を作ったりするため。町や県を作るため			B B A	B	生活や建物を建てたり, 人を支えるために税金は必要なんだと思いました。			B B B	B
8	男	○	○	消費税, 地方消費税, とん税, 関税, たばこ税, 特別とん税, 石油石炭税, 温泉入浴税	国をきれいにするため			B B B	B	10%も上がると高くて困っちゃうので, 引き上げは厳しいです。			C C B	C
9	男	○	○	とん税, たばこ税, 消費税, ふるさと納税, 酒税	国をよくするため。事故が起きないようにカーブミラーやガードレール, 信号をつけたりするため			B A A	A	税金はあった方が国をよくするためにいいと思うけど, 貧しい生活をしている人にとっては食べ物を買うときだったりとかに大変だなと思いました。でも, あった方がいいのかなと思いました。			B B A	B
10	女	○	○	とん税, 消費税, 特別とん税, 自動車税, ふるさと納税	よい国をつくるため			B B B	B	税金には種類がたくさんあって, それぞれ払っていたら, とてつもない金額になってしまうから, もう少し安くしてほしい。			C C B	C
11	女	○	○	固定資産税, とん税, 関税, 自動車税, 消費税, 納税, たばこ税, ふるさと納税	国のため			B B B	B	税金は高いが, 私たちのために使われている。			B B B	B
12	女	○	○	とん税, 消費税, 関税, 自動車税	国をよくするため			B B B	B	税金の種類が多いと感じた。税金は大切だと感じた。			B B B	B
13	男	欠		—	—					—				
14	女	○	○	関税, とん税, 消費税, 特別とん税, たばこ税	国をよくするため, 生活を快適にするため			B A A	A	税金の中の消費税という税で8%を私たちが払っているのがわかりました。あと10%にひきあがったら大変だと感じました。			B C B	B
15	男	○	○		人のため			B A B	B	税金はほかの国などと付き合ったり, 人のためにあることが分かった。			C B B	B
16	男	○	○	とん税, たばこ税, 消費税, ふるさと納税, 固定資産税, 納税	国のため, 生活をよくするため			B A B	B	税金はなくてはならないものだけど, どんどん金額を上げなくても大丈夫だと感じます。(10%にしなくてもよい)			B B A	B
17	女	欠		—	—					—				
18	男	○	○	たばこ税, とん税, 関税, 自動車税, 消費税, 地方消費税, 特別とん税, 特別たばこ税, 石油石炭税	国をよくするためや生活をよくするため			B A B	B	税金は生活をよくなったりするけど, 税金の増やし過ぎには困ります。もし, 増やすなら程よく税金を増やしてください。それでも税金を増やしてほしくないです。			B B A	B
19	男	○	○	とん税, 自動車税	国をよくするため			B B B	B	税金の値段は増えていくのだろうか			C C B	C
		17	17					基準	A	5		基準	A	0
									B	11			B	12
									C	1			C	5
	欠席	2	2						欠席	2			欠席	2
	計	19	19						計	19			計	19

	評価内容	設問	基準	人数
評価①	政治を行う財源として租税（税金）があることを理解できたか。	税金は 何のためにあると思いますか。	A	5
			B	11
			C	1
評価②	納税義務が課せられている国民には、権利があることを理解できた。	税金について、国民として、考えたこと、感じたことを書いてください。	A	0
			B	12
			C	5

(資料5)

		事前 9月1日 (金) 実施			直前 9月20日 (水) 実施			実施後 9月22日 (金) 実施		
		租税	税金	税金種類	租税	税金	税金種類	租税	税金	税金種類
1	女	×	○		○	○		○	○	消費税, とん税, 関税
2	男	×	○		○	○		○	○	とん税, 特別とん税, 消費税, ふるさと納税, たばこ税
3	男	×	○		○	○		○	○	とん税, 特別とん税, たばこ税, たばこ特別税, 消費税, 酒税, 関税
4	男	○	○	消費税, 住人税	欠			○	○	消費税, 関税, 住民税, たばこ税, とん税, 自動車税, 自転車税
5	男	×	×		欠			○	○	消費税, 租税
6	男	×	×	しゃきん	○	○		○	○	とん税, たばこ税, 関税, 特別とん税, 酒税, 納税, ゴルフ場利用税
7	男	欠			○	○		○	○	国税, とん税, 関税, 酒税, 自動車税, 狩猟税, ゴルフ場利用税, 消費税
8	男	○	○	消費税	○	○	消費税	○	○	消費税, 地方消費税, とん税, 関税, たばこ税, 特別とん税, 石油石炭税, 温泉入浴税
9	男	×	○		○	○		○	○	とん税, たばこ税, 消費税, ふるさと納税, 酒税
10	女	×	○		○	○		○	○	とん税, 消費税, 特別とん税, 自動車税, ふるさと納税
11	女	×	○		○	○	租税, 関税, 消費税	○	○	固定資産税, とん税, 関税, 自動車税, 消費税, 納税, たばこ税, ふるさと納税
12	女	×	○		○	○		○	○	とん税, 消費税, 関税, 自動車税
13	男	欠			欠			欠		
14	女	×	○		×	○		○	○	関税, とん税, 消費税, 特別とん税, たばこ税
15	男	×	○		○	○		○	○	
16	男	×	○		○	○		○	○	とん税, たばこ税, 消費税, ふるさと納税, 固定資産税, 納税
17	女	欠			欠			欠		
18	男	×	○		○	○	たばこ	○	○	たばこ税, とん税, 関税, 自動車税, 消費税, 地方消費税, 特別とん税, 特別たばこ税, 石油石炭税
19	男	欠						○	○	とん税, 自動車税
		○	2	13	13	14		17	17	
		×	13	2	1	0		0	0	
		欠席	4		4			2		

平成29年度 租税教育に関する研究発表要項

岩沼市立岩沼小学校

教諭 三澤 恵

1 研究主題

税の意義や役割を理解し、政治参加に対する意欲を高める指導の工夫
～税金の使い道について考えさせる活動を通して～

2 主題設定の理由

小学6年生は「税」という言葉は知っていても税に関する知識がほとんどなく、日本国憲法についての学習もまだである。税金の種類はもちろん、納税が国民の義務になっていることも知らない児童がほとんどである。身近なのは消費税であるが、何に使われているのか、なぜ支払わなければならないのかについては、考えたこともないようである。働いて税金を納めているわけでもない小学生が、税に対する知識がほぼないことは当然のことであると考えた。

そこで、税に関する知識を学ぶだけではなく、自分なりの理由をもち、国民から集めた税金の使い道を考えさせたり、自分とは違った考えをもつ友達の見解を聞かせたりすることによって、税の意義や役割についての理解を深めさせたいと考えた。また、自分たちの考えた大事だと思う税金の使い道と本当の国家予算を比較させることで、現代社会が抱える問題や政治参加の大切さにも目を向けさせたい。それが今後の社会科の学習につながっていくのではないかと考え、本単元を設定した。

3 研究の目標

税の意義や役割を理解させるとともに、大切な税金をどのように使うのかを考えることの重要性に気付かせ、政治参加の意欲を高める指導の在り方を探る。

4 研究の方法

- (1) 税金に関する実態調査を行う。
- (2) 租税教室を受け、税に関する基本的な知識を学ばせる。
- (3) 租税教室で学習した税金の使われ方を再度確認し、最も多くお金を掛けるべき使い道は何か、自分なりの理由とともに考えさせる。
- (4) (3) で考えたことをもとに、友達と意見交流をさせる。同じ意見を持つ友達とグループを作り、他の意見を持つ友達を説得する意見を考えさせ、発表させる。
- (5) 今年度の本当の国の予算を提示して、平成4年度と今年度の予算を比較させ、社会保障の割合が増えている理由を考えさせる。また、国の予算を決めているのは誰かを考えさせることで、国民の政治参加（選挙）が大切な税金の使い道を決めるために重要であることを理解させる。
- (6) 税に関する学習について振り返らせ、意識の変容をみる。

5 研究の計画

10月	事前実態調査
	租税教室 講師 仙台南税務署 高橋 竜之氏
	実践授業
11月	実践授業
	研究のまとめ・発表

6 研究の概要

(1) 児童の実態 (平成29年度6年3組 男子17名 女子20名 計37名)

1 税金にはどんな種類があるか知っていますか。知っている税の種類を書きましょう。

(はい 23名 いいえ 14名)

- ・消費税 (18)
- ・納税 (7)
- ・関税 (2)
- ・自動車税 (2)
- ・土地税 (2)
- ・所得税 (1)
- ・住民税 (1)
- ・印税 (1)
- ・市民税 (1)
- ・固定資産税 (1)

2 税金は、どのようなことに使われていると思いますか。

- ・国のため (10)
- ・公務員の給料 (3)
- ・教科書 (3)
- ・道路工事 (3)
- ・政治 (2)
- ・国づくり (2)
- ・県で何かを作る (2)
- ・その他 (13)
- ・わからない (3)

3 税金は、誰が払っていると思いますか。

- ・親や大人 (12)
- ・自分 (9)
- ・みんな (6)
- ・国民 (4)
- ・消費者 (3)
- ・全世界の人 (2)
- ・その他 (5)
- ・わからない (1)

4 税金は必要だと思いますか。(そう思う理由)

(はい 12名 どちらとも言えない 16名 不要 8名)

【はいの理由】

- ・日本をよりよくするためだから (2)
- ・必要じゃないなら集めないから (1)
- ・先生の給料が払えなくなるから (1)
- ・教科書がもらえなくなるから (1)
- ・国が成り立たないから (1)
- ・何かができるならした方がいいから (1)
- ・日本の借金を返すため (1)
- ・いいことに使われているから (1)

【どちらとも言えない・不要の理由】

- ・何に使ってるか知らないから (6)
- ・無駄に使われている可能性もあるから (4)
- ・お金の無駄遣いだから (2)
- ・無駄に使う人(国会議員)がいるから (1)
- ・8円が面倒くさいから (1)
- ・払わされているから (1)
- ・自分の意志ではないから (1)
- ・なくても生きていけるから (1)

【考察】

租税教室の前に行った実態調査のため、予備知識がほとんどない状態の児童の実態がよく分かる結果となった。「関税」や「納税」という言葉は、社会科で明治時代の学習をしていたことにより出てきた言葉だと考えられる。つまり、児童が日常生活において税について考えたり知ったりする機会がないということが分かった。税金の必要性を感じられない児童が多いことも、税金についてよく知らないことが理由だと考えられる。

以上のことから、租税教室を通して「税金の必要性」を感じさせるとともに、何に使うべきかを自分なりに考えさせ、意見を交流させていくことで、税金に対する興味・関心を高めることができると考えた。また、自分たちの納めた税金がどのように使われるかにも目を配っていくことが重要である。そのためには、積極的に政治参加することが大事だという視点にも気付かせたい。

(2) 実践の概要

【第1時】 租税教室（平成29年10月24日）

仙台南税務署の方々に来ていただき、基礎的な税金の役割について詳しく教えていただいた。また、DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」の視聴により、税金がない世界をイメージすることで、税金の必要性を感じることができた。

【第2時】 税金の学習 第2時

〈学習課題〉集められた税金は、どんなことに、どれくらい使われているのかを考えよう。

租税教室をもとにして、税金がどんなことに使われていたかを再度全体で確認し、出てきた意見をもとに以下の5つに分類した。

- ①社会保障（医療・介護など）
- ②公共事業（道路・橋・公民館など）
- ③文化・教育（教育・科学技術の発展のため）
- ④防衛（自衛隊・国防など）
- ⑤経済協力（発展途上国の援助）

平成29年度の国の予算（私たちの暮らしと税：中学校用）の円グラフを提示し、最も多く割り当てべきだと考えるものは①～⑤のどれだと思うか、理由とともに考えさせた。



この下に、理由を書かせる欄を作り、自分がなぜそれを選んだのか、友達に分かりやすく話すことができるようにした。

「防衛」を選んだ多くの児童が北朝鮮によるミサイルのことを理由に挙げていた。

【第3時】 税金の学習 第3時

〈学習課題〉「最も多く使われるべきだ」と思った税金の使い道について話し合い、最終予算案を立てよう。

第2時で考えたことをもとにして、友達と考えの交流をさせた。同じ意見をもつ児童同士をグループにし、グループごとに「何に最も多くの税金を使うべきか」理由を挙げて発表させた。この際、別の意見をもつグループの友達を説得するつもりで発表できるように準備させ、発表後に最終的な自分の考えを再度まとめさせた。



- ・話し合いの様子（左上写真）
- ・発表の様子（上写真）
- ・発表を聞く児童の様子（左写真）

①～⑤は、どれも必要なことなので、他と比較して「なぜそれが最も大事なのか」を発表することができたグループは説得力があった。

税金に関するだけでなく、根拠を明確にして話すことの大切さを改めて感じるためのよい機会にもなった。

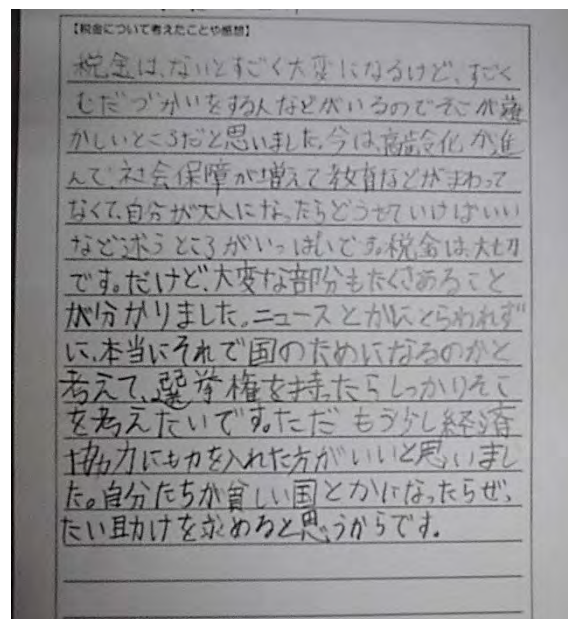
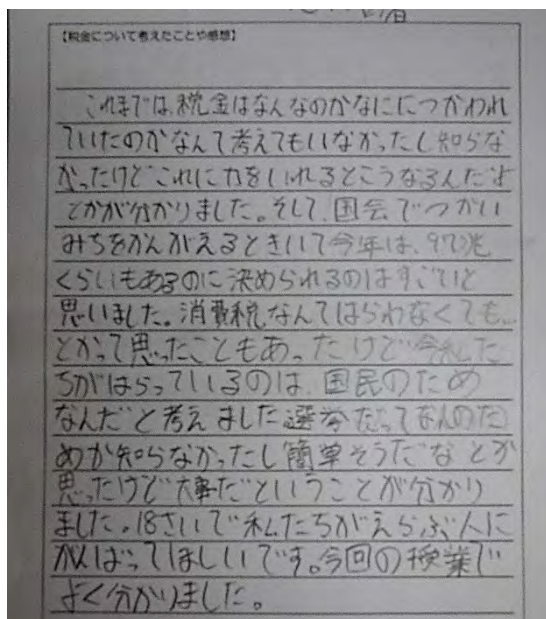
【発表を聞いて考えたこと】

- ・経済協力は一番にするまでもないと思った。理由は、自分の国がまだかんべきではないというのに、なぜそっちを優先するのかが分からないから。
- ・税金をかけている他のことを、防衛（自分が一番だと考えていること）と比べてみて、これは確かに必要だなとか（これは後からすればいいのでは？）とか（これの方がいいのでは？）や（防衛がないとこれは・・・）など、いろいろ考えたけど、やっぱり防衛かなと思いました。
- ・経済協力の話で、自分のことに置きかえて話をしているのは、すごく説得力があると思いました。
- ・いろいろな税金の使い方にいろいろな理由があることが分かり、その中でその使い方の長所と短所を見つけられるなと思いました。

【第4時】

〈学習課題〉国の予算の変化の理由や、予算を立てているのは誰かを考え、税金や政治参加について考えをまとめよう。

第3時の最後に、各自が考えた「最も多く税金を使うべき使い道」の結果を提示し、今年度の国の予算と比べさせた。その後、平成4年度の国の予算と比べると、社会保障費が増大していることに気付かせ、理由を考えさせた。医療と介護というキーワードから「高齢化」に気付くことができた。同時に、今後の国の予算における社会保障費の割合が増えていくことが予想されることにも気が付いた。そうすると、児童が他に大事だと考えたものの割合は減らざるを得ないことに目を向けさせ、自分たちの考えが予算に反映されるためにはどうすればいいのかを考えるために、誰が予算を決めているのかを考えさせた。歴史の学習などから、「国会で話し合って決める」ということにたどり着くことができたので、議員を選ぶための選挙が国民にとっての政治参加であることを確認した。税金を納めることも大事だが、それがどのように使われていくのかを、納税者として意識することや、選挙で自分の考えの代弁者を選ぶことも大切であることを全体で確認し、これまでの税金の学習をすべて振り返って考えたことや感想をまとめさせた。



【税金について考えたことや感想】

- 税金の使い道というのは、私たちには全然決める権利なんてないと思っていたけれど、本当は簡単に言えば、国民が決めているのだと思うと、政治参加は大切だと思った。
- これまで、税金ってなんであるんだろうと思ったけど、身近なところでぼく達を支えてくれるんだと勉強になりました。学校に行っているのも、支えてくれている人々がいるので感謝しています。
- ぼくは、18歳になったら選挙に行こうと思いました。自分の意見が通らないまま、お金を取られるのはもったいないから、自分の意見を通して税金を使った方がいいと思います。
- 税金の使い道はこのようになっていて、こういう時に使われているということを知り、「税金はこんなに日常と関係していて、こんなにも大切なものなのか」と感じた。大人になったら、選挙にも参加しようと思った。

7 研究の成果と課題

【成果】

- ・租税教室では、税金の必要性を十分に感じさせることができた。
- ・税の意義や役割を理解させるために、自分なりに「最も多く税金を使うべき使い道」を各自で考えさせ、理由を挙げて話し合わせたり、発表させたりしたことにより、自分の身近な課題として税を捉え、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。
- ・税の必要性だけでなく、納税や政治参加への意欲も高めることができた。
- ・税の学習から、選挙を通しての政治参加を考えさせることで、社会科の学習とつなげることができた。学習指導要領や年間指導計画には含まれていない今回の税の学習も、合科的に進めることができたのは良かった。

【課題】

- ・今年度は単発で授業を行ったため、今後も行っていくのであれば、年間指導計画に位置づけ、計画的に授業を行う必要がある。
- ・行事がたくさんある2学期の多忙な時期に、研究発表に向けて授業を進めることはとても困難だった。

平成29年度 租税教育に関する研究発表要項

亘理町立荒浜中学校
教諭 小鴨 幸生

1 研究主題

『租税への関心を高めるための指導法の工夫』
～学び合いを取り入れた指導を通して～

2 主題設定の理由

私たちの生活は、国や地方公共団体の財やサービスによって支えられている。国や地方公共団体の公共施設や公共サービスは、国民生活の基盤となるものであり、安全で豊かな生活を維持し確保するためにはなくてはならないものである。そしてその経費は、国民が税という形で負担している。

生徒は、国や地方公共団体が公共的な仕事を行い、その費用が税金でまかなわれていることは、知っている。しかし、租税に関しては、まだ授業で取り扱っていないので、租税のしくみや種類、財政の働きというところまでは、理解していない。また、税金は「取られるもの」というマイナスのイメージを持つ生徒が見られ、「納めるもの」という認識は多くはない。

義務教育終了の学年にあたり、国や地方公共団体の財政が国民生活の安定や向上に結びついていることを理解させたい。また所得の再分配や景気の安定化など財政が国民生活に重要な役割を果たしていることも理解させるとともに赤字国債依存の脱却が財政上の課題であることを考えさせることも大切である。これからの時代を担う大人として、将来の主権者として、納税の義務を果たすとともに、税金の使いみちに関心を持つことが大切であることに気づかせたいと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

租税について身近な資料をもとに話し合い、税への関心を高める指導のあり方を探る。

4 研究仮説

- (1) 身近な資料を活用することにより、税に対する関心が高まるであろう。
- (2) 税のしくみについての学習や話し合いを通して、様々な意見を聞き考えることで、財政活動への理解が深まり、関心も高まるであろう。

5 研究方法

- (1) 租税についての意識調査を行う。
- (2) 税理士会の協力により、租税教室を実施し、税に対する興味・関心を持たせる。
- (3) 教科書、資料集、税務署からの資料などを使用し、理解を深める。
- (4) 所得税に対する話し合いをし、税に対する様々な考えを聞き、考えを深める。
- (5) 亘理町の財政（予算）の移り変わりを、復興との関係で考える。
- (6) 10年後に、住みやすい亘理町にするためには、どこに予算を多く使えばいいか考える。

(7) 税について考えたことや感想を書き、今後の指導に役立てる。

6 研究計画

- 8月 租税教室座談会
- 9月 税に対する実態調査の実施、
- 10月 租税教室実施、授業実践
- 11月 研究のまとめ、発表

7 研究の概要

(1) 税に関する実態調査の結果 (28名 複数回答)

1) 税金の種類には、どんなものがあるか。知っているだけ書きなさい。(複数回答)

①消費税 (27人)	②所得税 (11人)
③たばこ税 (4人)	④酒税 (3人)
⑤関税 (2人)	⑥国税 (1人)

2) 税は、何に使われていると思いますか。(複数回答)

①建物 (8人)	②国のため (7人)
③学校関係 (4人)	④公務員の給料 (3人)
⑤救急車など (2人)	⑥よりよい生活 (2人)

3) 税金は必要だと思いますか。

必要	どちらかと言えば必要	必要なし
15名	13名	0名

(2) アンケートの考察

生徒は、まだ税についての学習をしていないため、税の種類や使い道など税に対する知識は多くはない。しかし、生徒にとって身近な税である「消費税」についての関心は高く、その動向に関心が高い。「税金は必要」と考えている生徒、「どちらかと言えば必要」と考えている生徒がほとんどで、「必要ない」と考える生徒はいなかった。使い道については、理解している生徒と知らない生徒との差が大きかった。税のしくみを正しく理解し、使い道について正しく学習することが納税意識を高めるのに必要だと考えた。そのためには、身近な資料であるをもとに、公共サービスや公共施設を国や地方公共団体が、「なぜ」、「何のために行っているのか」を理解させることが重要であると考えた。

(3) 租税教室 (木村経営管理会計)

- 1) 講師 木村拓也税理士
- 2) 参加者 3 学年生徒 (31 名)
- 3) 「税って何かな？」
 - ①税金とは
 - ②税金のしくみ
- 4) 租税教室を終えて
 - ・もっと知りたいことや質問。

- ・消費税が 10% になったときの、良い点と悪い点。
- ・なぜ税金を上げるのか？
- ・税は無駄なく使われているのですか？
- ・消費税の税率が上がった場合、生活はやっぱり苦しくなるのですか？
- ・今後、税金は増えるのか？
- ・消費税は、このまま上がっていくのか？
- ・一生で払う税金はいくらくらいか？

(4) 実践授業 I 社会科 (公民的分野) 3 年生

学習内容 所得税について考える。

学習目標 所得税について、どの方法が公平かをまとめ、自分の言葉で発表し合う。

学習課題 どの方法が公平か？

学習活動 1 前時までに学習した税金の種類について、小グループで確認し合う。

生徒の反応 ・消費税 ・所得税 ・酒税 ・法人税

学習活動 2 納税者と担税者が一致する税金、一致しない税金について、小グループで確認し合う。

生徒の反応 ・直接税 ・間接税

学習課題 『どの方法が公平か』

学習活動 3 「同じ金額」「同じ税率」「所得に応じて税率を変える」の中から、公平だと思うものを選び、理由をプリントに記入する。

学習活動 4 「同じ金額」「同じ税率」「所得に応じて税率を変える」の 3 グループに分かれて、自分の考えを話し合う。

学習活動 5 全体で、グループごとに考えを発表し合う。

生徒の反応 ・同じ金額の方が公平である。
・消費税のように同じ税率にするとわかりやすく、公平である。
・所得が少ない人が少なく税を払い、お金持ちがたくさん税を払うのが、公平である。

学習活動 6 「どの方法が公平か」について、自分の考えをプリントにまとめる。

学習活動 7 話し合いを通して、「わかったこと」「なるほどと思ったこと」をプリントにまとめる。

1) 所得税についての話し合いから

①話し合う前の考え

ア「どの人も、同じ金額の税にする」(0名)の主な意見

- ・この考えはいなかった。

イ「どの人も、同じ税率にする」(6名)の主な意見

- ・頑張って働いたのに、あまり働いていない人より多く取られるのはおかしい。
- ・同じ税率にすると不公平がなくなる。
- ・消費税のように同じ税率にするとわかりやすく、公平である。

ウ「所得に応じて、税率を決める」(20名)の主な意見

- ・同じ税率にすると、所得の低い人が大変。
- ・所得にあった税率を決めることが、必要。
- ・貧富の差がないように。
- ・所得が少ない人が少なく税を払い、お金持ちがたくさん税を払うのが、公平である。

②話し合い後の感想から

ア「どの人も、同じ金額にする」(0名)の意見

- ・話し合いの後も、この考えを支持する生徒はいなかった。

○友人の意見を聞いて、「なるほど」と思った考え

- ・皆平等であるから、差があっても同じ金額を払うのも1つの考え。

イ「どの人も、同じ税率にする」(6名)の意見

- ・頑張って努力した人から多く取るとかわいそう。
- ・給料が高い人から多く取ると、働く意味がない。
- ・皆平等だから、同じ税率がいい。
- ・所得が少ないのに、同じ税率を払うのはおかしい。

○友人の意見を聞いて、「なるほど」と思った考え

- ・低所得者の生活が苦しくなる。
- ・同じ税率の方が、不公平である。

ウ「所得に応じて、税率を決める」（20名）の意見

- ・所得が多い人が税を多く払っても生活はできるが、所得が低い人にとって同じ税率だと、生活が苦しくなる。
- ・同じ税率だと、所得の少ない人の負担が大きくなる。

○友人の意見を聞いて、「なるほど」と思った考え

- ・頑張っている人から、多く税を取るのはおかしい。
- ・自分が考えていない意見が出た。いろんな意見が聞けて、新しく思いつくことが多くあった。

③話し合いの結果からの考察

所得税について、「同じ金額」「同じ税率」「所得に応じて税率を変える」の3つの方法について、話し合いを試みた。「同じ金額」という生徒はいなかったが、どの生徒もしっかりと自分の考えを主張し、真剣に取り組んだ。話し合いの前後で、大きく考えが変わる生徒は見られなかった。しかし、互いの意見を発表し合う中で、「なるほど」と考えたり「それもあるな」など、相手の考えを全否定するのではなく、考えの一部を認めつつも、自分の考えを主張していた。様々な考えがあることを理解し、多面的に物事を捉え、共に高め合う姿勢が感じられた。将来の納税者として、「累進課税の意義」について考えることができたと思う。

(5) 実践授業Ⅱ 社会科（公民的分野）3年生

学習内容 亶理町の財政について考える。

学習目標 亶理町の財政について、震災復興と関連して考える。

学習課題 亶理町の歳入はどのくらい？

学習活動1 平成29年の亶理町の歳入はどのくらいかを考える（4択）

生徒の反応 ・1700万円 ・17億円 ・170億円 ・1700億円

学習課題1 『亶理町は何にお金を使っているか』

学習活動2 亶理町は、どんなことにお金を使っているか考える。

生徒の反応 ・学校 ・道路 ・公共のもの ・復興

学習活動3 平成29年の予算（歳入約170億円）から、「歳出の内訳」と「何に多く予算をとっているか」を予想し、グループで話し合う。

生徒の反応 ・民生費 ・土木費

学習活動4 震災前（平成22年の歳入約90億円）と震災後（平成24年の歳入約600億円）を比較する

生徒の反応 ・大きく増えている。 ・復興に使っている。

学習課題2 『10年後（2027年）に、もっと住みやすい亶理町にするためには』

学習活動動5 全体で、グループごとに考えを発表し合う。

生徒の反応 ・土木費を増やして、新しい道路や公園を造る。
・高齢化が進むので、民生費を増やす。

・土木費や衛生費を増やし、きれいな亶理町にする。

学習活動6 各班も意見を聞き、参考になった意見をもとに、自分の考えをプリントにまとめる。

1) 亶理町の財政について話し合いから

①亶理の予算の内訳（震災の前と震災後）を見て、考えたこと。

- ・震災の復旧に、多く使っている。
- ・災害復旧費は、257億円になっている。
- ・年度によって、使う内容が変化している。
- ・国からの税金が多い。
- ・震災の復興に、すごいお金を使ったと思った。
- ・土木費が多くなっている。

②10年後の住みやすい亶理にするために

- ・土木費を多くして、亶理を発展させる。
- ・土木費を多くして、新しい道路や公園を造る。
- ・高齢化が進むので、民生費を多くする。
- ・子供を増やすために、教育費を多くする。
- ・子供の数が少なくなるので、教育費を削減する。
- ・土木と衛生費を増やし、住みやすい町にする。
- ・建物を増やす。
- ・子供とお年寄りが安心して暮らせるように、民生費と土木費を増やす。
- ・衛生費を増やし、町をきれいにする。

③話し合いの結果からの考察

亶理町の予算についての話し合いでは、予算の内訳（各項目の内容）については、個人で考えた後グループで話し合わせた。話し合いでは、参考になった友人の意見をメモするなど、どの班も真剣であった。また、震災前後の比較では、自分たちの町の復興に、多くの災害復旧費が使われたことに驚いていた。10年後の亶理町についての話し合いでは、よりよい亶理町にするために、各班真剣に話し合っていた。自分たちの班の意見を発表するだけでなく、他の班の意見を参考にしたり質問を考えるなど、共に高め合う姿勢が見られた。話し合いを通して、将来の納税者として税金の使い道に興味を持つことができたと思う。

8 まとめと今後の課題

(1) まとめ

- 1) 租税教室の開催は、専門的な立場からの話が聞けて生徒にとって、税を身近に感じるとともに、納税の必要性について関心を高めることができたと思う。
- 2) 話し合いでは、友人の発表内容を真剣に聞き、疑問に思ったことを質問するなど積極的に取り組んでいた。また、自分の考えを主張するだけでなく友人の考えも真剣に聞き、考

えをより深めようとしていた。話合いの後は、友人の発表内容を整理したり、疑問に思ったことを整理することにより、さらに、深く調査活動を行いたいという気持ちが出てきた。

3) 亘理町の財政に関する資料は、生徒にとって身近であったため、関心が高まったと思う。

(2) 課題

- 1) 今回は6時間扱いで行った。租税に対する興味を高めるため、そしてより高い成果を上げるためには、3年生の公民だけで租税学習を行うのではなく、1・2年生の授業内容と関連づけ、3年間を通した指導計画を作成する必要があると考える。
- 2) 税の役割やはたらきを、日常生活に結びつけて主体的に考えさせていくために、さらに指導方法の工夫や身近な資料の収集に努めていく必要があると考える。
- 3) 税に関する様々な資料を、限られた授業時数の中でどのように生かしていくかが課題である。

資料 【租税学習を終えて】

○税があったおかげで、復興ができた。

○税は、今まで納めたくないと思っていたが、税は納めなくていけないものと分かりました。なぜなら、税を使って町や国でいろいろなことをしているからです。

○税は取られるものだと思っていたけど、何かあった時、皆で共有、使い合うものと気づきました。

○消費税しか知らなかったけど、たくさんの税があることが分かりました。自分が知らないだけで、たくさんの人たちに関わっているものだと気づきました。税についての考え方が変わりました。

○震災の後に、たくさんの税が災害復旧に回された。

○税の種類や使い道が分かりました。税がなければ、大変なんだと思いました。

○税は、なくてはならないものだと思います。税がなくなると、救急車も呼べなく、復興も進まなくなる。税は必要。

○税は「めんどくさい」とか「何で払わなければならないの？」など思っていたのですが、大切なことだと分かりました。

○税は、必要。なぜなら、国のため使われ僕たちの暮らしを豊かにしてくれるから。

○自分や他の人が、災害などで困ったときに助けてくれる。

○税金を納めることによって、その町を良くしていく。納めることは、大切。

○税がないと、不便になる。国民にとって、大変になると思う。

○町の復興が進んだ。前より税に対する考えが変わった。

○税は「取られるもの」と思っていたが、「納めるもの」と考えが変わった。国を良くするためには、税金が必要だと感じた。

○税は、学校などみんなが使うものに使われていることが分かった。

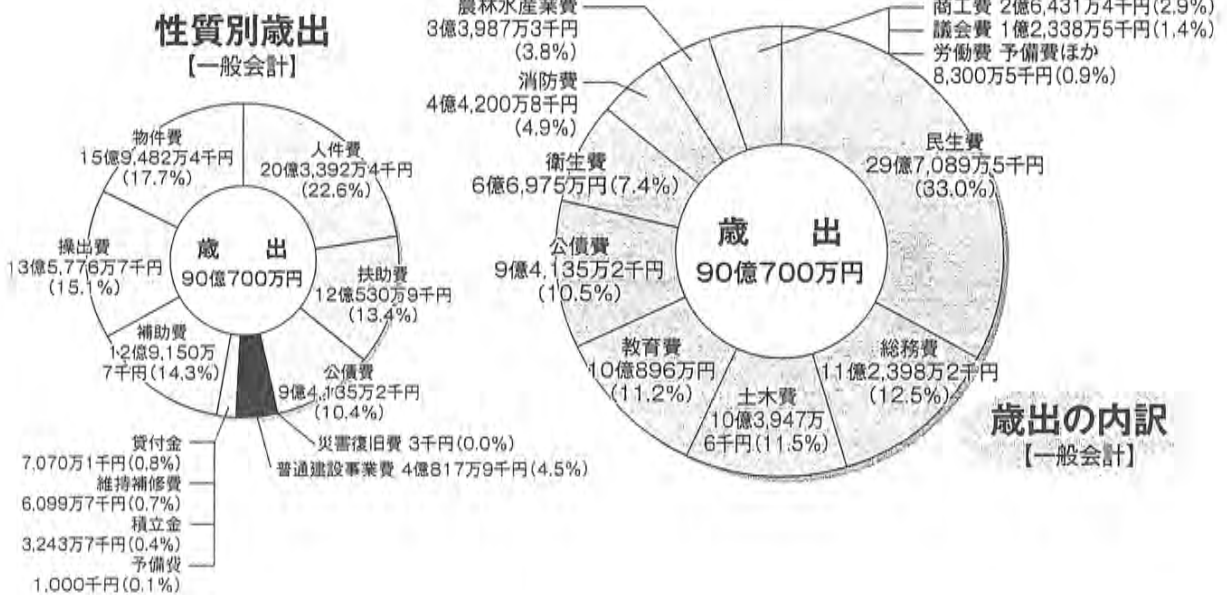
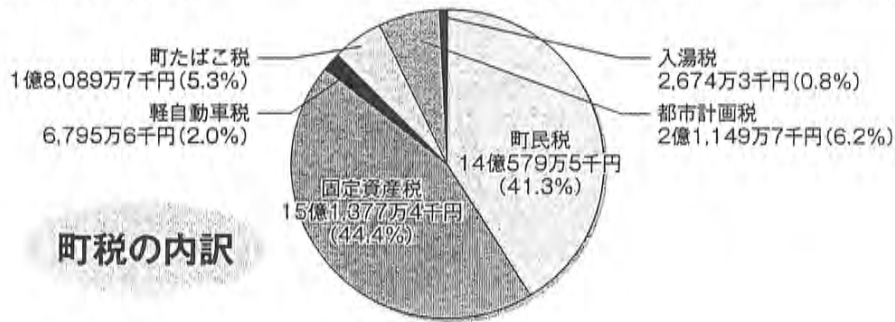
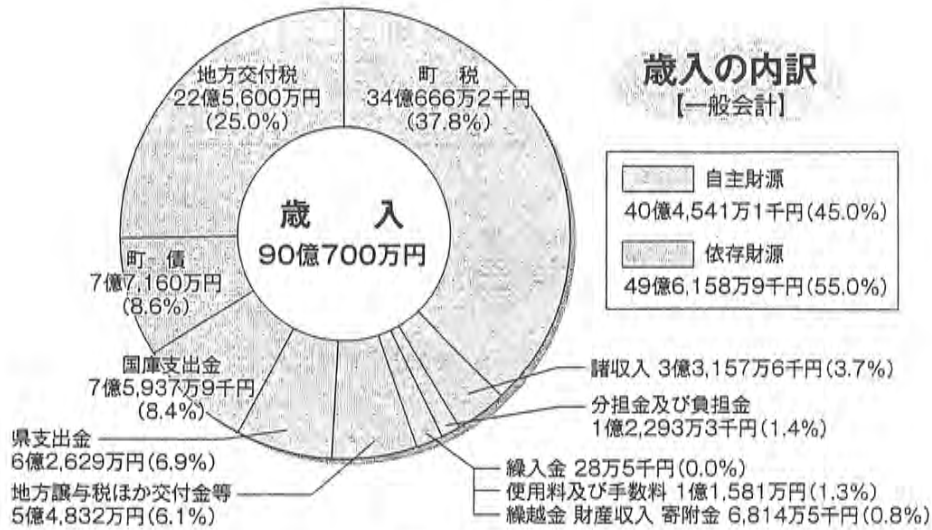
○税が国民の生活に役立っていると考えたら、税はなくてはいけないものと思った。

○「どうして税を払わなくていけないのだろう？」と思っていたけど、「納めることが大切」だと思った。

○払いたくないと思っていたけど、税は困ったときやよりよい日本をつくるために大切なものだと分かった。

○税は、私たちの生活をより豊かに、便利にするものだと分かった。

亘理町当初予算のあらまし



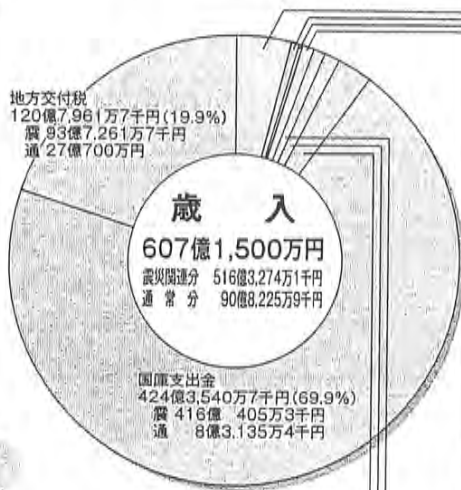
歳出の内訳
【一般会計】

亘理町当初予算のあらまし

自主財源
35億2,213万4千円(5.8%)

依存財源
571億9,286万6千円(94.2%)

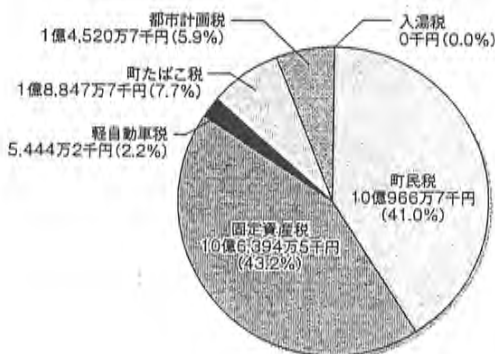
震：震災関連経費
通：通常経費



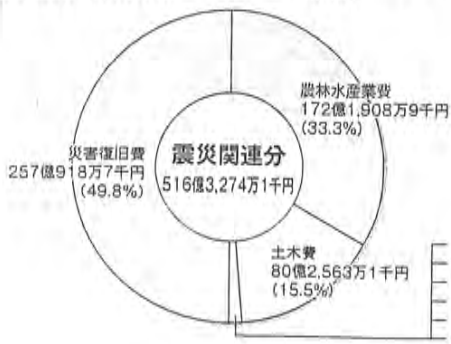
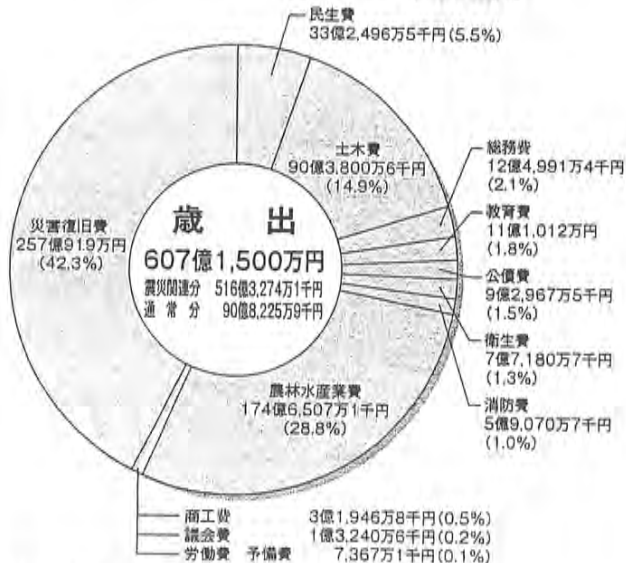
歳入の内訳 【一般会計】

- 町税 24億6,173万8千円(4.1%)
震 △3億7,800万円
通 28億3,973万8千円
- 諸収入 3億1,327万1千円(0.5%)
震 5万円
通 3億1,322万1千円
- 分担金及び負担金 1億2,365万3千円(0.2%)
震 0円
通 1億2,365万3千円
- 繰入金 4億7,090万9千円(0.8%)
震 1億1,794万4千円
通 3億5,296万5千円
- 使用料及び手数料 8,217万3千円(0.1%)
震 0円
通 8,217万3千円
- 繰越金 財産収入 寄附金 7,039万円(0.1%)
震 350万1千円
通 6,688万9千円
- 地方譲与税ほか交付金等 5億2,323万8千円(0.9%)
震 0円
通 5億2,323万8千円
- 町債 5億9,640万円(1.0%)
震 0円
通 5億9,640万円
- 県支出金 15億5,820万4千円(2.5%)
震 9億1,257万6千円
通 6億4,562万8千円

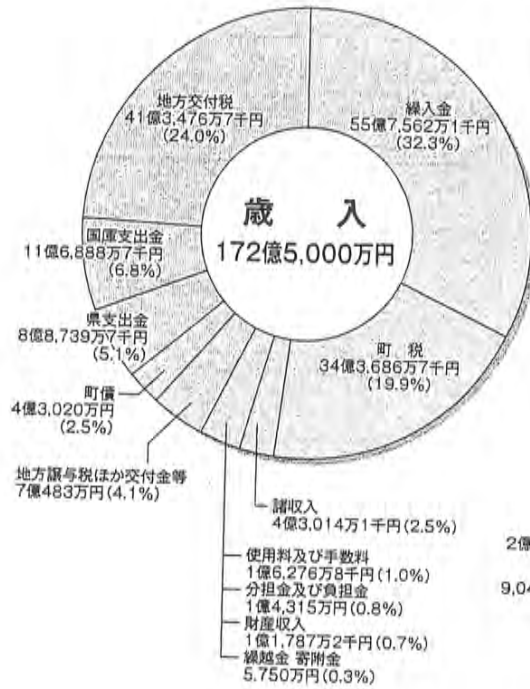
町税の内訳



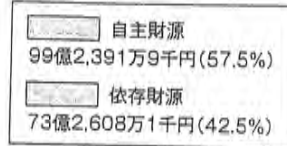
歳出の内訳 【一般会計】



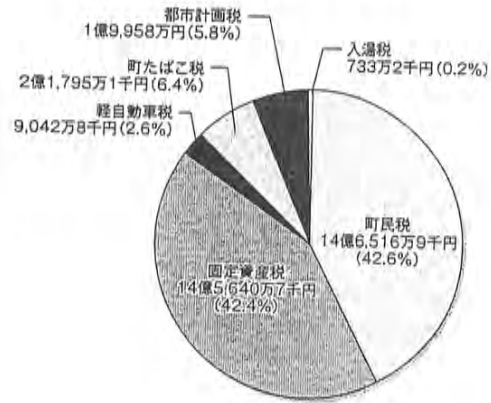
巨理町当初予算のあらまし



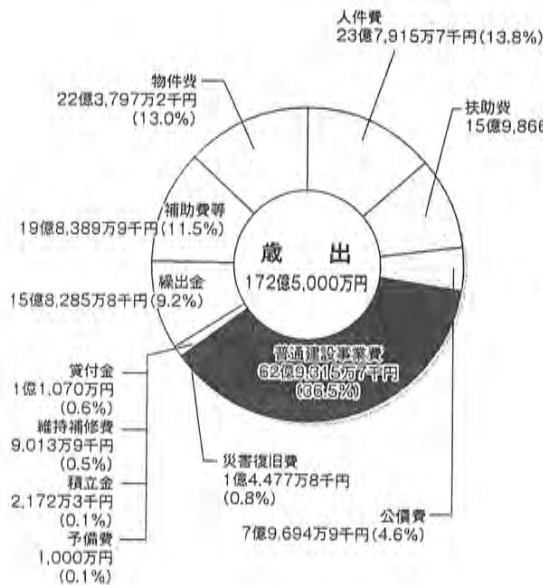
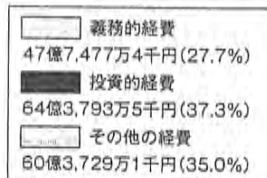
歳入の内訳 【一般会計】



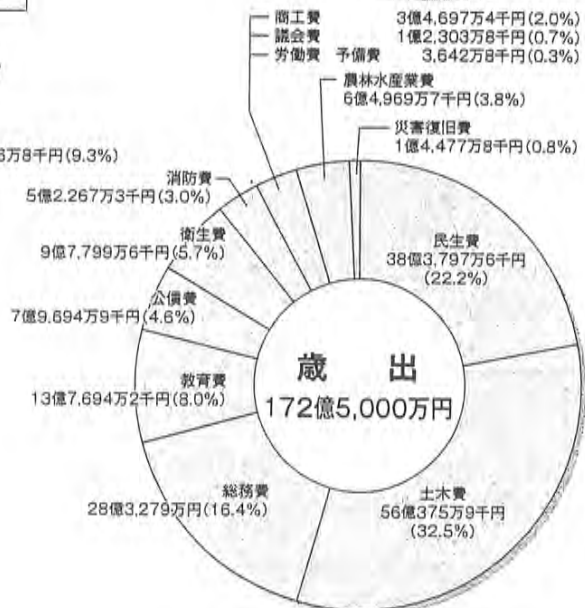
町税の内訳



性質別歳出 【一般会計】



歳出の内訳 【一般会計】



平成29年度 租税教育研究発表要項

山元町立山下小学校

教諭 森 大地

1 研究主題

税に対する興味・関心を高め、税への理解を深める指導の工夫
～主体的に課題を設定し、自ら調べる活動を通して～

2 主題設定の理由

今日のわたしたちの生活は、国や地方公共団体の政策と深く関わっており、この政策に基づく様々なサービスを受けながら生活している。わたしたちの生活と密接に結び付いた教育・環境衛生・警察・消防・社会保障などの公共サービスや、道路・橋・下水道・公園・公民館などの公共施設の建設・整備や維持・管理などの活動は、わたしたちの生活に欠かすことができず、それらの費用のほとんどが税でまかなわれている。また、本校のある山元町は東日本大震災により、沿岸部の住宅やJR常磐線等が甚大な被害を受けた。しかし、現在は新市街地や復興住宅の建築等の新しい町づくりが進められており、それらには国の復興予算等の税金が深く関わっている。

小学6年生の段階で租税の意義や役割などを学習し、税に対する興味や関心を高め、租税への理解を深めることで、国民としての納税の義務を果たそうとする主権者としての自覚をもたせることが大切であると考え本主題を設定した。

3 研究目標

児童が自ら学習課題を設定し、主体的に調べ解決していく学習活動を通して、児童の税に対する興味・関心を高め、税への理解を深める指導を工夫する。

4 研究の仮説

- (1) 児童一人一人が興味をもったことについて学習課題を設定し、自ら調べ解決していく活動を取り入れることで、児童の税に対する理解は一層深まるであろう。
- (2) 山元町の復興事業にかかわる事例を取り上げ、学習を進めることにより、税金が自分たちの安心・安全で豊かな生活と密接に関わっているものとして捉えることができるであろう。

5 研究方法

- (1) 税金に対する意識調査を行い、実態を把握する。
- (2) 租税教室を通し、税金の意義や役割について理解させる。
- (3) 山元町の復興事業に関わる授業を展開し、税金が私たちの生活に密接に関わっていることを理解させる。
- (4) 個人で課題を設定し、インタビューや資料、インターネット等を活用して調べさせる。
- (5) 類似した課題を設定した児童同士をグルーピングし、調査したことを、模造紙に新聞形式でまとめさせる。

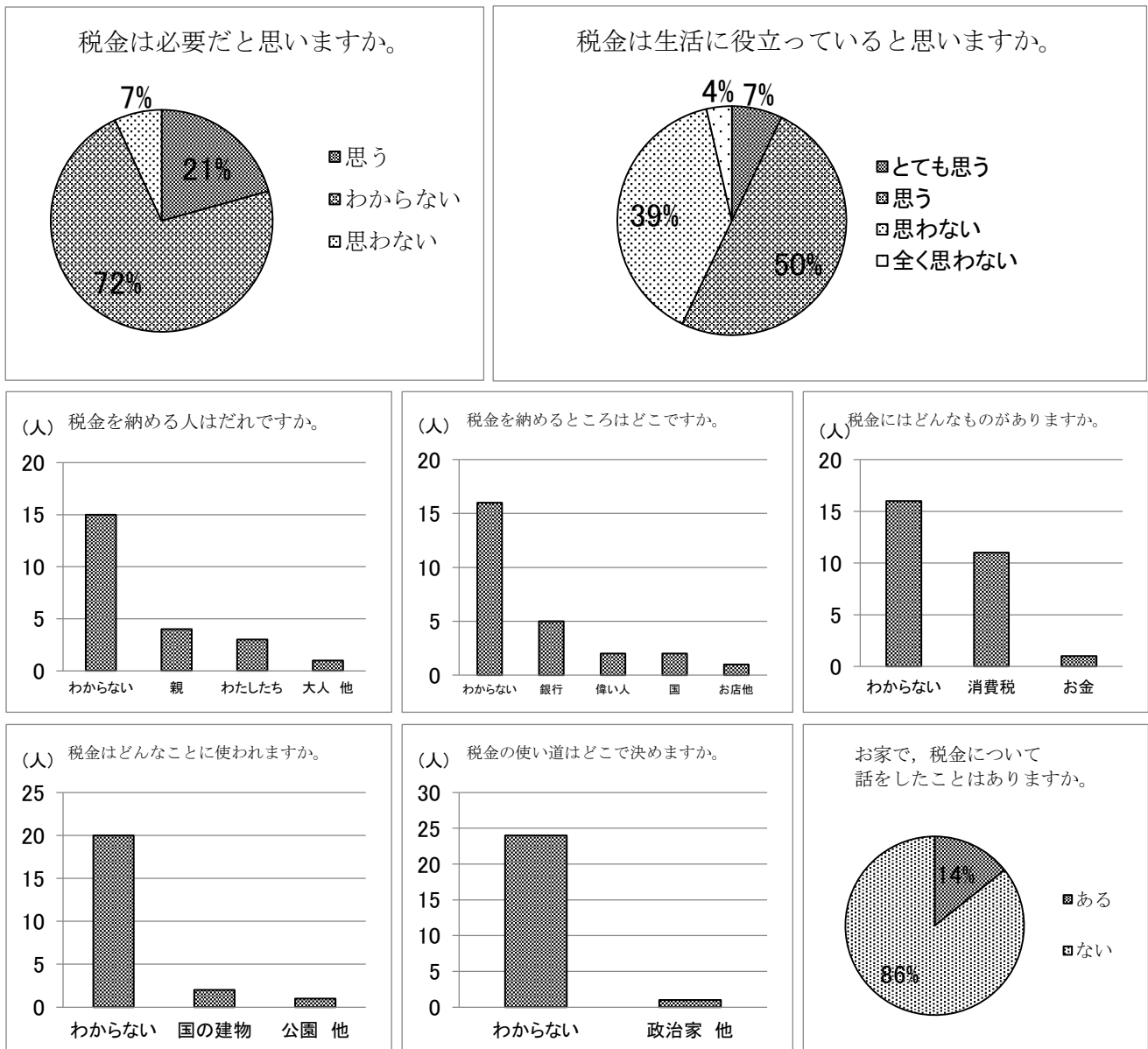
- (6) 発表会を行い、調べた内容を共有させることで、知識を相互に関連付けさせながら、理解させる。
- (7) 事後調査を行い、変容を考察する。

6 研究計画

年次	学年	時 期	内 容
1	5年	平成29年 2月	意識調査 租税教室①
2	6年	平成29年 7月 夏季休業中 9月 10月 11月	実態調査 調べ学習 租税教室② 授業実践 研究のまとめ 研究発表会 事後調査

7 研究の概要

(1) 意識調査 (平成29年 2月 第5学年 男子12名 女子18名)



【考察】

- ・ 税金という言葉は知っているが、税金の使われ方や集め方、必要性など、どのようなものなのか正しく理解している児童はほとんどいない。
- ・ どの質問項目においても、「わからない」と回答する児童が最も多かった。また、正しい回答が少ないことから、税金についての理解が低い児童が多いことが分かる。
- ・ 納税者については、「わたしたち」と回答した児童が10%と僅かだった。また、使われ方については「国の建物」や「公園」など公共施設や自分たちと関わりのあるもので回答している児童が少なく、税金を身近なものとして捉えている児童が少ない。
- ・ 家庭で「税金についての話題が取り上げられている」という児童は14%であり、その内容の全てが税率の上昇や減税などの話題であった。

以上のような児童の実態から、税金についての正しい知識を理解させることが必要であると考えた。また、税金を児童にとって身近なものとして捉えさせ、税金が生活に欠かせないものであることや税金によって公共のサービスを受けていることについて気付かせていく必要があると考えた。

(2) 指導計画

段 階	主な学習内容	教科・領域	単 元
意識調査	・ アンケートを実施し、児童の実態を把握する。		5
租税教室①	・ 税金について知り、興味・関心を高める。	学活 1	
実態調査	・ 前年度の租税教室を受けての児童の実態を把握する。		6
税金について知ろう 租税教室②	・ 夏休みを利用して、税について調べ学習を行う。		
	・ 税金についての理解を深める。	総合 1	
税金について調べよう	・ 山下駅や新市街地など復興事業と税金の関わりについて知る。	総合 1	
	・ さらに詳しく調べたいと思ったことについて学習課題を設定する。	総合 1	
	・ 学習課題について、資料やインターネットなどを活用したり、取材したりして調べる。	総合 2	
	・ 調べたことをグループ内で発表し合い、考えを深める。	総合 1	
調べたことを伝えよう	・ 調べたことを新聞にまとめる。	総合 2	
	・ 発表会を行い、調べたことを友達同士で共有し合う。 ・ 「みやまフェスティバル」で「租税ブース」を設置し、保護者や地域の方々に伝える。	総合 2	
事後調査	児童の税についての理解の変容を見取り、個人内評価につなげる。		

(3) 実践の概要

【第5学年時】

租税教室①（平成29年2月9日）

〈学習内容〉税金について知り，興味・関心を高める。

仙台南法人会青年部会の方々を講師として招き，税金の種類や世界の税率等の基本的な税金の知識について詳しく学習した。また，DVDアニメ「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を視聴することで，世の中から税金がなくなるとどうなってしまうのかを知り，なぜ税金が大切なのかを分かり易く学ぶことで，税金の必要性を知ることができた。最後に1億円分の札束のレプリカを持たせてもらい，その重さを体感することができ，児童は税金への興味や関心を高めることができた。

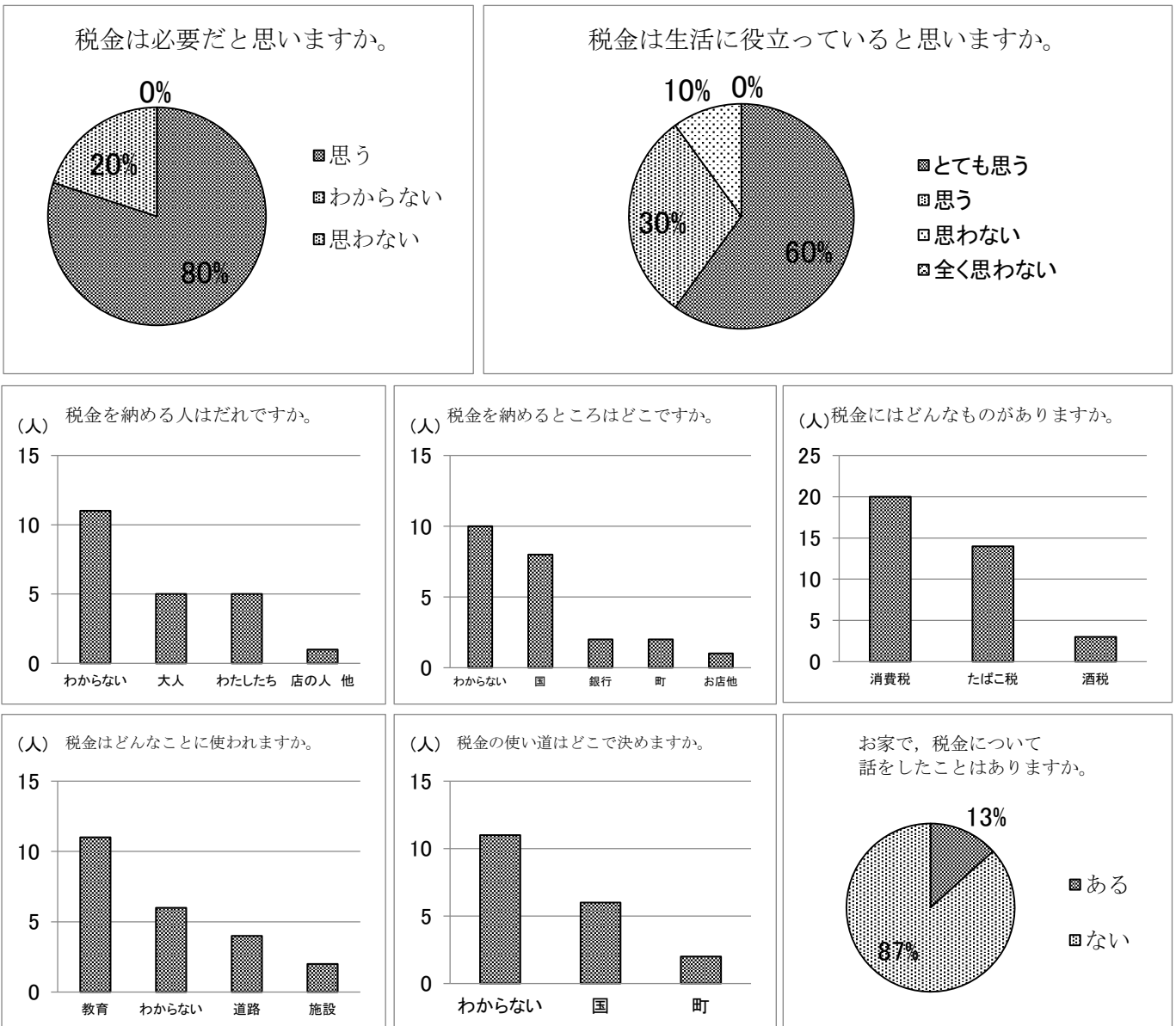
段階	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	1 自己紹介 2 本時の学習課題を知る。 税金について知ろう。		・掲示物
展開	3 消費税について知る。 ・現在の日本の消費税について確認する。 ・世界各国の消費税と比較する。 4 税金の種類について知る。 ・大きく国税と地方税に分けられることを知る。 ・酒税やたばこ税など，身近な物にも税金がかかっていることを知る。 5 税金のない世の中の様子について知る。 ・DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を視聴し，税金がなくなった世の中のことについて考える。 6 税金の使われ方について知る ・アニメで視聴した内容の他にも，児童にとって身近な教育に関わる税金の使われ方について知る。 ・災害の復旧作業にも税金が使われていることを知る。 ・税金の使われ方は国会で決められていることを知る。 ・1億円のレプリカを持ち，お金の重さを体感する。	・児童も実際に納めている消費税をあげ，興味や関心を高める。 ・身近な税金の種類をあげ，身の回りにはたくさんの税金があることを知らせる。 ・アニメを通して，税金のある世の中とない世の中の様子を比較させ，税金の必要性を考えさせる。 ・児童自身に直接関わる教育現場（小学校）で使われている税金について知り，必要性を実感させる。 ・使われ方と自分自身の生活を関わらせ，税金の必要性について考えさせる。 ・1億円のレプリカをもつ体験を通して，税金やお金に対する興味をより高めさせる。	・モニター ・DVD ・デッキ ・掲示物
終末	7 本時のまとめをする。 ・疑問に思ったことを質問する。 ・学習感想を書き，分かったことを振り返る。	・児童の新たな疑問や気付いたことを次時への課題とするなど見通しをもたせる。	・ワークシート



写真1 租税教室を通して、税金の基本的な知識を学ぶ児童

【第6学年時】

実態調査（平成29年度 10月 第6学年 男子12名 女子18名）



税金について、昨年度の租税教室を通し、「税金の使われ方」や「税金がないとどうなるのか」などの学習をしているので、税金の必要性や生活に役立っていることなどは実感しているようだった。また、税金に対するイメージも「みんな楽になるもの」「大切なもの」というように漠然としているのが好印象をもちはじめた児童が見られるようになった。一方で、「税金を納めている人は誰ですか」という問いや「税金はどこに納めますか」という問いに対して、半数以上が「わからない」と答えたり、誤った回答をしたりするなど、基本的な知識が十分に身に付いていないことが分かった。以上のような実態から、今年度も昨年度に引き続き「租税教室」などの学習を通して、税金に対する正しい知識を身に付けさせる必要があると考えた。

税金について知ろう

夏季休業中の課題（平成29年7月22日～8月27日）事前調査を実施したところ、第5学年時に租税教室を実施したことで、以前と比較して税金を必要と感じている児童が増えていた。一方で、徴収方法や用途など、まだ十分に理解していないことも分かった。そこで、夏季休業中の課題として、税金について疑問に思ったことを資料やインターネットなどを活用し調べさせることにした。調べた内容は、「税金の使われ方」や「税金の種類」「外国の税金」「税に関する言葉」など様々なものが見られた。

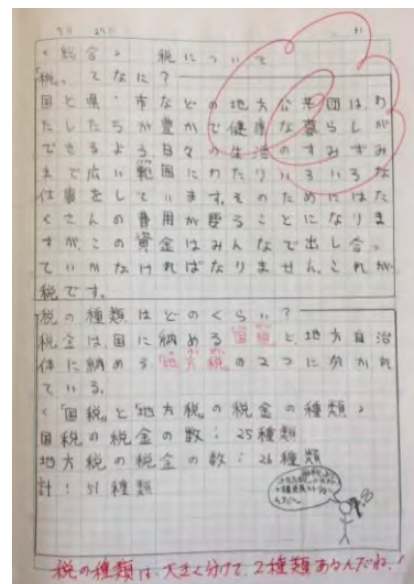


写真2 「税の意味」や「税の種類」について調べた児童のノート

租税教室②（平成29年10月6日）（2時間）

〈学習内容〉税金についての理解を深める。

2回目の実態調査から、税金の大切さについて気付く一方で、「税金は誰が納めているのか」「税金はどこに納めているのか」「税金の使い道は誰が決めているのか」など、児童から新たな課題が出された。そこで、仙台南税務署の方を講師として招き、3点の課題を中心とした内容で2回目の租税教室を実施した。授業の中では、山元町に新しく建設された「つばめの杜ひだまりホール」や復興事業などへの税金の使い道についても触れてもらい、身近なところで税金が使われていることや税金が自分たちのために使われ、生活に密接していることなどにも気付くことができた。また、質疑応答の時間を設け、税金についての疑問を解決することで、より興味・関心を高め、税金への知識を深めることができた。

段階	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	1 自己紹介 2 本時の学習課題を知る。 税金の納め方や使い道について考えよう。		・モニター ・パソコン
展開	3 税金は誰が納めているか知る。 ・消費税や自動車税などを中心に、具体的に納税の対象者について知る。	・買い物をした人、収入のある人、車を持った人など、国民が公平に納めていることを捉えさせる。	・モニター ・パソコン ・ワークシート

展 開	<p>4 税金はどこに納めているのか知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や県，市町村に納めていることを知る。 <p>5 税金の使い道について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育費用，社会保障費用，公共事業費用について使われていることを知る。 ・山元町の施設や復興事業にも使われていることを知る。 <p>6 税金の使い道は誰が決められているのか知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国会や市町村の議会で話し合っていることについて知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国税や地方税などの言葉にも簡単に触れる。 ・「公共費用」「教育費用」などの自分たちにも税金が使われていることを捉えさせる。 ・みんなが選んだ代表が決めていることを捉えさせる。 	
終 末	<p>7 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疑問に思ったことを質問する。 ・学習感想を書き，分かったことを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の気付きを次時の学習に生かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表 ・ワークシート



写真3 画像やワークシートを活用しながら税金についての知識を再確認する児童

○児童の感想より，租税教室を終えて分かったこと（□）やもっと知りたいこと（□□□□）。

税金を納めるには，年齢は関係ないということや税金の種類は50種類もあることが分かった。

日本で一番多く使われているのは，社会保障に関わることということが分かった。

税金は，私たちが暮らしやすくなるように，いろいろなところに使われている。税金を使っている
ので，学校などでみんなが検診を受けることができ，病気の予防につながることも分かった。

税金でつくられているものが，思ったよりも多いことが分かった。

学校で使われている税金の金額がすごく高いところに興味をもちました。

税金は上がるがあると知りびっくりしました。これからの税金は，どれくらい上がるのだろう。

税金の歴史を調べたい。できた時から今までどんなものがあつたのか。

外国の税金と日本の税金の違いについて調べてみたい。

税金について調べよう（6時間）

【1時間目】

〈学習内容〉・さらに詳しく調べたいと思ったことについて学習課題を設定する。

これまで税金について、どのようなことを学習してきたかを振り返り、税金について分かったことをワークシートにまとめさせた。既習事項を振り返ることで、「納め方」「使われ方」「世界の税」「山元町と税」などについて学んできたことを確認し、これらの言葉をキーワードにしなが、これから調べていきたいことを次時からの学習課題として考えさせた。児童から挙げられた主な課題は、以下のとおりである。

学習課題	調べる内容	学習課題	調べる内容
税金の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・会社に納めている税金 ・買い物をして納める税金 ・国税の種類 ・地方税の種類 	税金の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・税金のはじまり ・今と昔の税金の違い ・税金制度の変化
世界の税金	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の消費税の比較 ・税金がない国はあるのか ・世界の様々な税金 ・世界一消費税の高い国の生活 	税金のこれから	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの消費税 ・なぜ消費税は上がるのか ・少子高齢化と税金 ・税金を納めなくなったら
税金の納め方や使い方	<ul style="list-style-type: none"> ・県への納め方 ・町や市への納め方 ・税金の使われ方 ・宮城県の税収 	山元町と税金	<ul style="list-style-type: none"> ・山元町の建物やサービス ・復興に使われた税金 ・山下小学校で税金が使われている物 ・「ひだまりホール」と税金

段階	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	1 税金についての既習事項を振り返る。 2 本時の学習課題を知る。 税金についての学習課題をつくらう。	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について、どのようなことを学習してきたか、分かったことを確認させる。 	
展開	3 税金についての学習課題を決める。 <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を想起し、いくつかのテーマをあげる。 ・あげられたテーマの中から、より自分が調べてみたいことについて考える。 ・似ている学習課題をもった児童が集まり、共通の学習課題をつくる。 4 学習計画と役割分担を決める。 <ul style="list-style-type: none"> ・どんな内容を調べるのか、どのように調べるのか、誰がどんな役割をするのか、グループ毎に決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にとったアンケートで、学習課題にあげられたテーマを紹介する。 ・教師側からテーマについての助言をする。 ・4, 5人程度のグループにする。 ・調べる時間や調べる材料などを具体的に知らせ、見通しをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート ・ファイル ・ワークシート

終末	<p>5 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の学習の計画を見直し、見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学习で調べてきてもよいことを伝える。 ・次時への意欲をもたせる。
----	---	--



写真4 グループの中で、各々の学習課題をどうするか話し合う児童

【2・3時間目】

〈学習内容〉・学習課題について、資料やインターネットなどを活用したり、取材したりして調べる。

一人一人自分の担当する内容について、インターネットや町の広報誌等の資料などを活用しながら調べ学習を行った。インターネットで効率よく調べさせるため、「国税庁ホームページ 税金の学習コーナー」等、児童が設定した学習課題に即した内容が載っているウェブサイトを担当が事前に調べ、サイト集を作成し、提示する等の工夫をした。また、ワープロソフトを活用し、ホームページ上で参考とする部分をコピーし貼り付けることで、自分だけの「電子メモ」にまとめさせる方法も指導したことで、効率よく調べ学習を進めていた。また、本校事務職員にインタビューしたり、山元町役場の総務課の職員の方を通して質問したりしながら、興味を持続して調べ学習を進めることができた。

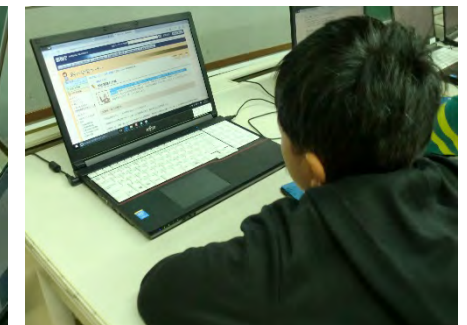


写真5 インターネットや資料を活用したり、インタビューをして聞いたりしながら、自分の学習課題について調べ学習を行う児童

【4時間目】

〈学習内容〉調べたことをグループ内で発表し合い、考えを深める。

自分の担当する内容についてまとめたことをグループ内で互いに発表し合った。その中で、知識の伝達だけに終わることなく、そこから自分なりに考えることや新たな疑問についても話し合わせることで、「税金は大昔からあるが、今とその意味や使われ方が違う。」「税金にたくさんの種類があるのには、意味があるようだ。」「北欧の消費税率が高い国が幸せなのはどうしてだろう。」など、税金の必要性や税金が豊かな生活のために欠かせないものであることについて触れる新たな学習課題が聞かれた。



写真6 調べた内容を友達に説明する児童とそれに対して質問したり、考えを伝え合ったりする様子

【5・6時間目】

〈学習内容〉調べたことを新聞にまとめる。

自分の担当した内容を記事にし、グループ毎に模造紙で新聞にまとめた。まとめる際には、レイアウトやデザイン、文字の大きさを工夫したり、図や表を入れたりすると相手に伝わりやすいのではないかなど、グループ内で相談し、聞き手を意識しながら、作成を進める様子が見られた。また、新聞の中に個々の感想とグループで考えた税金に対する考えや思いを書かせ、読み手へのメッセージとさせた。



写真7 自分が調べた課題を記事にしたり、協力して新聞を作り上げたりする児童

調べたことを伝えよう（2時間）

【1・2時間目】

〈学習内容〉・発表会を行い、調べたことを友達同士で共有し合う。

グループ毎に作成した新聞を發表し合い、税金についての知識を共有した。様々なテーマのグループの発表を聞き合うことで、今まで知らなかったことに気付き、税金についての理解を深めることができた。「税金は生活に欠かせないものということが分かった。」「大人になったらきちんと税金を払っていきたい。」「税金は国民の会費ということが分かった。」という言葉が聞かれ、多くの児童が税金の必要性について気付くことができたようだ。

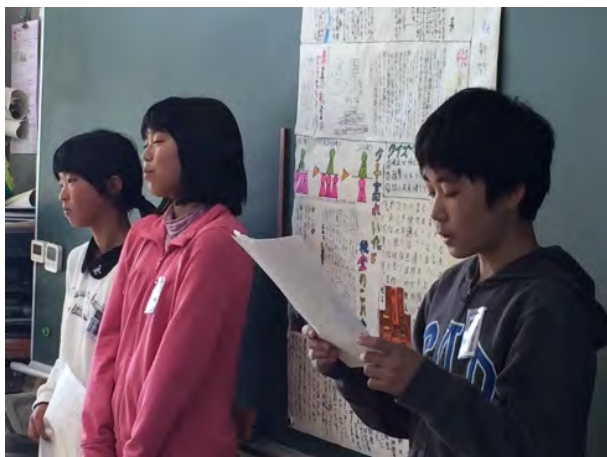


写真8 グループごとに作った新聞を發表する児童

世界の税

新聞

外国の税について

消費税の導入は、日本だけでなく、世界各国でも行われています。消費税は、商品の価格に一定の割合の税金を加えることで、国の財政を安定させるための手段です。

消費税の導入は、消費者にとっては負担が増えるかもしれませんが、国にとっては重要な収入源となります。また、消費税は、商品の価格を上げることで、国内産業を保護する効果もあります。

消費税の導入は、消費者にとっては負担が増えるかもしれませんが、国にとっては重要な収入源となります。また、消費税は、商品の価格を上げることで、国内産業を保護する効果もあります。

世界の消費税

国名	消費税率	順位
日本	19.3%	8位
ドイツ	17.0%	7位
フランス	18.0%	10位
韓国	17.0%	11位
中国	16.5%	12位
アメリカ	16.0%	13位
イギリス	15.0%	14位
イタリア	20.0%	1位

消費税の導入は、消費者にとっては負担が増えるかもしれませんが、国にとっては重要な収入源となります。また、消費税は、商品の価格を上げることで、国内産業を保護する効果もあります。

消費税の導入

消費税の導入は、消費者にとっては負担が増えるかもしれませんが、国にとっては重要な収入源となります。また、消費税は、商品の価格を上げることで、国内産業を保護する効果もあります。

消費税の導入

消費税の導入は、消費者にとっては負担が増えるかもしれませんが、国にとっては重要な収入源となります。また、消費税は、商品の価格を上げることで、国内産業を保護する効果もあります。

山元町の税金新聞

山元町の税金について

山元町の税金について

山元町の税金は、町民の生活に大きな影響を与えています。税金の導入は、町民の負担を増やしますが、町の発展とサービスの向上に不可欠です。

山元町の税金について

山元町の税金は、町民の生活に大きな影響を与えています。税金の導入は、町民の負担を増やしますが、町の発展とサービスの向上に不可欠です。

山元町の税金について

山元町の税金は、町民の生活に大きな影響を与えています。税金の導入は、町民の負担を増やしますが、町の発展とサービスの向上に不可欠です。

山元町の税金について

山元町の税金は、町民の生活に大きな影響を与えています。税金の導入は、町民の負担を増やしますが、町の発展とサービスの向上に不可欠です。

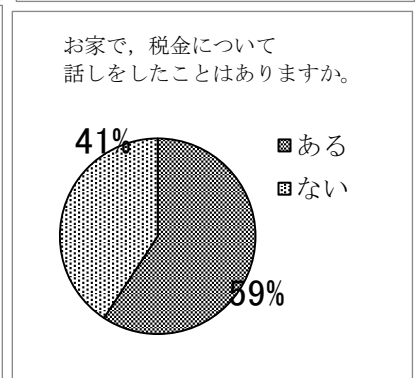
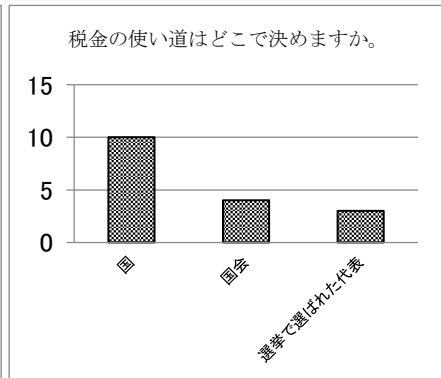
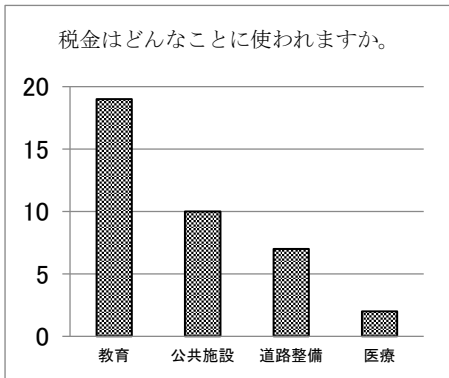
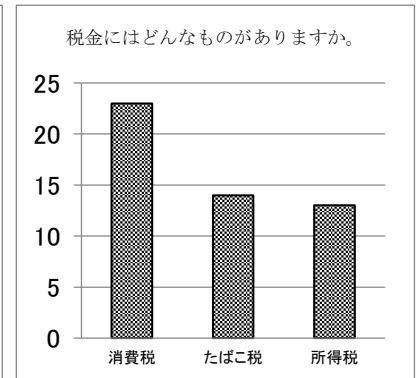
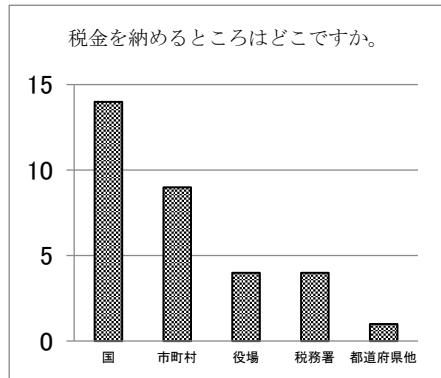
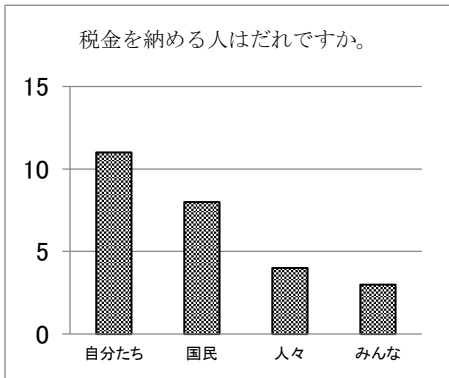
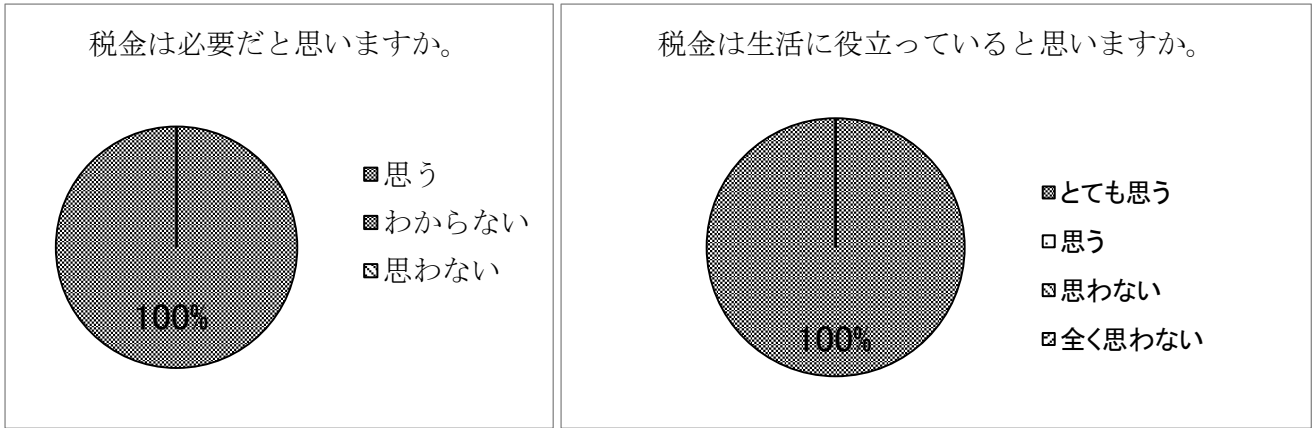
山元町の税金について

山元町の税金は、町民の生活に大きな影響を与えています。税金の導入は、町民の負担を増やしますが、町の発展とサービスの向上に不可欠です。

○児童が作成した新聞

【第6学年時】

事後調査（平成29年度 11月 第6学年 男子12名 女子18名）



○税金の学習をする前と、今では自分の中でどんなことが変わったと思いますか。

学習する前はなんで税金で必要なんだ？
って思ってたけど今回の学習を聞いて
税金はとて大切なんだ！と思った。

消費税をいれがたりしてたけどおれはすごく
大切だことが分かった。

税の大切さがよく分からなかったけど！
学んでみると、税をもっと大切にしよと思った。

最初は税金なんていらな思っていたけど、
今は税金は生活をする上で欠かせない
物だと思ふ。

前は税金に興味はなかったけどいまはも、税金
を調べていきたいと思ふ

学習する前は、税金は けつなりのものだ
と思つたけど今では税金はとて大事
なことにつかわれて、なつなりのまためだ
思ひました。

○学習後の児童の感想

私は、この学習も通じて分かったことが
あります。それは税金は自分達の生活に
してすごく大事な法と言ったことです。前
まではそんなこと全然わかってなくて、
「たまたま金もついてにはいるもの。」と思
ていました。どうしてそんなことをするのか
も考えることもありませんでした。でも、
今は分かっては本当にこまごまものと思
うことができました。つづいては税金の種類
があとと言ったことです。昔は消費税の1つだ
と聞いていたけれど、じつはこんなに種類が
あったことには本当にびっくりしました。税金
の役割は、むずかしいことはわかりで、まし
くはなかつたけれど、結果はむしろ良かったです。
この役割ができて本当によかったです。

私は、税金は本当に必要だ
と思います。それから、少子高
化の事についても、関係ない
と思、ていたけれど、この学習も
通じて、私もこれからし、かり、
考えて行かなければならぬと思
うようになりました。私は、大人に
なったら、自分たちの幸せのため、
てして、国民の幸せのために
税金をし、かり納める。そん
な大人になりたいです。それから、
特に、税ラニキニで、日本の位
が最下位 近くだと言
事にびっくりしました。

最初は、税金のことを、まったく知
りなかつたし、興味がなかつたけれど、
税金勉強をとおして、税の種類や
自分の住んでいる町の税について、
知れてよかつたと思います。
もし、税金がなかつたら、生活して
いけなくて、大変だと思いました。

今までは、税金なんて、知らない
じやんとか思、ていました。でも、この学習
を通じて、どれだけ税金が必要なのか
税金がないとどれだけ大変なのか
そういう点を改めて実感する事が
できました。どれだけ国から補助を
受けているのかなど、どれだけ僕
たちが、国や周りの人たちが受
けているかなど、今まで知らな
かつた事などを、矢張り感じたり
する事が、本当に出きた学習だ
と思いました。この学習で得た
知識をこれから大人になる時
などに生かしたい思、ました。

【みやまフェスティバル】

本校独自の行事である「みやまフェスティバル」で、租税学習コーナーを設置した。児童が作成した新聞や学習の様子の写真を掲示し、保護者や地域の方々に税金について学習したことや税金に対する児童の考えを伝えた。



写真9 租税学習コーナーの様子

8 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・学習の前に、児童の税に対する実態調査を実施したことで、児童の税に対する知識がどの程度備わっているのかを把握することができ、実態に応じた指導計画を考えることができた。
- ・租税教室を2回実施したことで、学習効果が上がった。1回目は、導入時に実施し、児童の税に対する興味・関心を高めることができた。また、2回目は、単元の途中で行うことで、税金の基本的な知識を理解することができた。
- ・税金について自ら学習課題を設定し、調べ活動を行うことで、意欲的に学習を進めることができた。また、内容が近い学習課題を設定した児童同士がグループになり、一緒に調べ活動を行ったり、まとめの新聞作りを行ったりすることで、相談しながら主体的に学ぶことができた。
- ・調べ学習の途中で、グループ内で調べたことを発表し合うことで、情報を共有し合い、そこから児童なりの税金に対する考えや新たな疑問が生まれ、学習に深まりをもたせることができた。
- ・事後の実態調査では、「税金は必要だと思いますか」「税金は生活に役立っていると思いますか」の項目で、全員が「必要である」「とても役立つ」と回答し、税金の必要性や大切さを理解することができた。また、他の項目についても、「わからない」と回答する児童はおらず、今回の学習で身に付けた知識を答えることができていた。

【税金は必要だと思いますか。】

	意識調査（5年時）	事後調査
思う	6名	30名
わからない	21名	0名
思わない	2名	0名

【税金は生活に役立っていると思いますか。】

	意識調査（5年時）	事後調査
とても思う	2名	30名
少し思う	14名	0名
あまり思わない	11名	0名
全く思わない	1名	0名

- ・総合的な学習の時間に単元を設定して位置付けることで、社会科とねらいを共有することができた。
- ・まとめの新聞や学習の様子を学校行事「みやまフェスティバル」で紹介し、保護者や地域の方々に紹介することで、税金について児童が分かったことや考えを伝えることができた。

(2) 課題

- ・調べ活動の際に活用できる資料や図書等を一層充実させられればよかった。
- ・外部機関との連携を計画的に行い、様々な分野の方々から専門的な話を聞く機会を設けられればよかった。そうすることで、児童の興味・関心を高めながら、より専門的な知識を身に付けることができたように思う。
- ・1学期から租税の学習をはじめ、個々の学習課題を明確にしていれば、夏季休業中の調べ活動が各自の課題に即した、より充実したものになっていたのではないかと思う。
- ・児童によりの確にアドバイスしたり、方向性を示したりするためには、教師自身が税についてきちんと理解した上で、指導に当る必要があると感じた。そのためには、専門機関に相談し、打ち合わせをしたり、教示いただいたりする必要があると思った。

9 今後の展望

- ・今年度は、総合的な学習の時間にも横断的に単元を設定し、学習を進めていったが、今後も年間計画に位置付けていくことで、継続的に租税教育の充実を図っていくことができると考える。
- ・将来、納税の義務を果たそうとする国民としての自覚をもたせるため、これから学習する社会「わたしたちの生活と政治」と関連付けながら、「税金は安心・安全で豊かな生活を送るために大切なものである」という意識を育てていきたい。

租税教育実践発表一覧（昭和62年度～平成3年度）

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
昭和62	名取市立増田小学校	伊 藤 清 子	国民の生活の安定と向上を図るために、国民の三大義務のひとつである納税の義務を深く認識させる
	岩沼市立岩沼南小学校	千 葉 宗 久	租税に対する関心を高めるための指導のあり方についての一考察
	亶理町立逢隈小学校	堀 川 達 也	基本的人権の尊重が民主政治の根本であり、納税の義務はこれらの権利の見返であることを理解させる
	山元町立坂元中学校	佐 藤 光 雄	租税の役割と納税の義務の意味についての理解を深めさせる
	秋保町立秋保小学校	榊 井 裕	国の事業活動を通して、税の必要性や仕組みを理解させる
昭和63	名取市立関上小学校	小 暮 出	社会科教育の中で、租税の重要性を指導し、公共心・協調心に結び付け、これらを実践できる人間性を目標とした指導の工夫
	岩沼市立岩沼西中学校	鈴木 啓 二 郎	金融と財政の働きの中で、租税と国民生活の関わりについての指導から税の意識の向上を図る
	亶理町立吉田小学校	今 野 喜 代 子	福祉関係等身近な事例を上げて税の重要性を指導し、最後に税の作文を通じて自覚をさせる
	山元町立山下中学校	菅 野 敏 郎	税に関するもの三点を上げさせ、これについて公民教育で考察することによる租税教育の実践
平成元	名取市立増田中学校	小 野 政 稔	租税の働きやしくみを理解させ、納税の義務を自覚させる
	岩沼市立岩沼西小学校	菊 地 真 勇 美	私たちの生活と政治の中から、租税について理解させる
	亶理町立吉田中学校	菊 地 嘉 昭	税に関する作品の応募から、財政と国民生活について指導
	山元町立坂元小学校	佐 藤 広 実	租税の簡単なしくみから、租税への関心を高めさせる指導
平成2	名取市立増田西小学校	鎌 田 彰 郎	産業廃棄物処理に関する学習の中で、税金の働きについてふれ、税の重要性を認識させる
	岩沼市立岩沼中学校	樋 口 英 明	財政を支える財源である租税の異議や役割を、経済の実態と動向にからませながら、税の重要性を理解させる
	亶理町立高屋小学校	太 田 久 仁 男	税金によって作られた公共物や学校施設を大切にする態度を育てる指導の工夫
	山元町立山下中学校	江 戸 寿	税金を正しく理解させるため、視覚教材を利用しながら見せる教育の実践
平成3	名取市立名取第二中学校	清 野 ひ さ 子	国民生活の中で、租税の働きを正しく理解させるための指導
	岩沼市立岩沼小学校	山 田 健 一	一人ひとりを大切にする政治の指導の中で、権利と税との関わりを考えさせる指導の実践
	亶理町立亶理中学校	本 間 和 哉	税に対し、生徒が主体的な活動により、興味・関心を持たせる指導の工夫
	山元町立山下第二小学校	佐々木 恭 也 小 関 尚 子	一人ひとりが健康で幸せな生活を送るために、税金は、どのように使われているかを理解させる

租税教育実践発表一覧(平成4年度～平成8年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成4	名取市立不二が丘小学校	丸 子 智 子	快適で豊かな生活を送るために税金はどのように集められ、また、どう使われるのか、自ら調べさせ理解させる指導
	岩沼市立岩沼北中学校	鈴 木 尚	租税の働きや仕組みを把握させ、正しい租税制度の在り方を理解させる指導
	亶理町立亶理小学校	木 村 和 正	税金が一人ひとりの生活に役立っていることを理解させる指導の工夫
	山元町立山下小学校	岩 佐 美 保 子 佐 藤 真 一	将来の自分や国を考えるために、税についての知識を深め、税の社会的意義を考えるとともに、興味・関心を持たせるような指導の工夫
平成5	名取市立第二中学校	丹 野 光 洋	国民生活に大きな影響力をもつ、財政を支えている租税の意義を理解させ、また、税金は共同社会を維持するための会費であることに気付かせる指導の工夫
	岩沼市立玉浦小学校	渡 邊 清 孝	問題意識を持ち、自ら調べ解決する学習活動を通して、児童の税に対する興味・関心を高めさせる指導
	亶理町立吉田中学校	永 浦 晴 久	金融と財政の働きを租税教育の中心場面ととらえ、消費者としての私たちと関連させ、税をより身近なものとしてさせる指導の工夫
	山元町立中浜小学校	近 藤 英 人	児童一人ひとりに生活の中で、自分が税に対しどう関わっていけばよいかと考えさせる指導の工夫
平成6	名取市立館腰小学校	高 橋 壽 子	問題意識をもって、自ら調べ解決する学習により、児童の税に対する関心を高めさせる税の意義と役割を理解させる指導の工夫
	岩沼市立岩沼西中学校	横 山 純	財政収入は租税を中心に成り立っていることを理解させ、納税の義務を負う国民のあり方について考えさせる指導
	亶理町立長瀬小学校	大 沼 仁	税金の必要性とその使われ方を理解させる指導を通して、税に対する興味・関心を高めさせる指導の工夫
	山元町立山下第一小学校	大 沼 毅	児童自ら税に対する課題意識を持たせ、調査し解決していく活動から、税の意義を理解させ、公共社会での責任と義務を培わせる指導の工夫
平成7	名取市立愛島小学校	石 川 峰 生	子供の租税に対する関心を高めさせる指導の工夫
	岩沼市立岩沼小学校	大 沼 毅	税制度の理解を通して、公共社会での助け合いに対して、興味・関心を高めさせる指導の工夫
	亶理町立荒浜中学校	田 原 満	租税の意義と目的を理解させる指導を通して、税への関心を高める指導の一考察
	山元町立坂元小学校	菅 原 裕 子	税金の仕組みとその使われ方を理解させる指導を通して、税に対する関心・理解を高めさせる指導の工夫
平成8	名取市立館腰小学校	芳 賀 佳 恵	課題意識を持ち自ら調べ解決する学習活動を通して、児童の税に対する関心を高めるための指導の在り方
	岩沼市立岩沼南小学校	菊 地 真 勇 美	税金は人々のくらしとどのように結びついているのかについて、身近な事例から気づかせ、納税の大切さを理解させる指導の工夫
	亶理町立荒浜小学校	佐 々 木 洋 美	計画・調査・発表を取り入れた学習活動を通して、児童の税に対する理解を深める指導の一考察
	山元町立坂元中学校	成 毛 毅	消費税と財政政策との関係をとらえて、税への関心を高める社会科公民的分野指導の一考察

租税教育実践発表一覧(平成9年度～平成13年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成9	名取市立増田小学校	高 橋 千 佳	税に対する意識・関心を高めるための指導 ～6年『みんなの願いを実現する政治』の指導を通して～
	岩沼市立玉浦中学校	長 澤 裕 司	税への関心を高め、税を見る目を養う指導の一考察 ～税の公平性を考える討論活動を通して～
	亶理町立逢隈中学校	菊 地 幸 子	社会科学習における租税教育の在り方と指導方法の工夫
	山元町立山下中学校	佐 藤 泉	税に対する理解を深める指導の一考察 ～財政の学習を通して～
平成10	名取市立不二が丘小学校	杉 田 由 英	児童の税に対する関心を高めるための指導 ～6年『みんなの願いを実現する政治』の指導を通して～
	岩沼市立岩沼西中学校	及 川 浩 芳	社会科における租税への認識を高める指導の工夫 ～各分野において、身近な資料を活用し、税の必要性を理解させる指導を通して～
	亶理町立逢隈小学校	鈴 木 健	自分なりの課題を持ち、自分なりの方法で調査や課題解決を行い、自分なりの方法で表現していく子供の育成 ～租税に関する学習を通して～
	山元町立山下第二小学校	佐 藤 真 一	小学5年生の税に対する興味・関心を高めさせる指導計画の工夫
平成11	名取市立下増田小学校	高 橋 宏 明	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～課題意識を持って自ら調べ表現する活動を通して～
	岩沼市立岩沼西小学校	水 沼 久 美 子	児童の税に対する関心を高めるための指導と学習計画の工夫
	亶理町立亶理中学校	星 和 敏	租税への関心を高めるための指導の工夫
	山元町立山下小学校	阿 部 広 力	小学校4年生の社会科学習における租税教育の効果的取り扱いについて
平成12	名取市立関上小学校	赤 沼 隆 史	児童の税に対する関心を高めさせる指導の工夫 ～自ら課題意識をもって調べる活動を通して～
	岩沼市立岩沼中学校	内 海 郁 子	児童の税に対する興味・関心を高めるための指導法の工夫 ～学び方を学ぶ学習を通して～
	亶理町立吉田小学校	渡 辺 隆	問題意識を持ち自ら学ぶ児童をめざして ～6年社会科の税金学習を通じた実践と考察～
	山元町立中浜小学校	阿 部 優 子	税に関することながらを主体的に学習させるための工夫
平成13	名取市立高館小学校	佐 藤 真 理 子	児童が税に対する興味・関心を持つための指導の工夫 ～住みよい「〇〇王国」作りの活動を通して～
	岩沼市立岩沼小学校	高 橋 悟	児童の税に対する興味・関心を高め、主体的に学習できるための指導の工夫
	亶理町立高屋小学校	大 槻 裕 史	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～課題意識を持って自ら解決する活動を通して～
	山元町立山下第一小学校	佐 藤 尚 利	学校のプールが新しくなったよ！ ～税金博士を目指して～

租税教育実践発表一覧(平成14年度～平成18年度)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成14	名取市立増田西小学校	鈴木 和 彦	児童の税に対する関心を高めるための指導の工夫 ～租税に関するニュース番組作りの活動を通して～
	岩沼市立玉浦中学校	大 堀 真 澄	税の関心を高め、理解を深める指導の一考察 ～租税に関する討論活動を通して～
	亶理町立亶理小学校	大 森 実	社会科との関連をはかった租税教育の試み ～税に関する興味・関心を育む単元の工夫を通して～
	山元町立坂元小学校	高 倉 成 行	児童が税に対する興味・関心を持つための指導の工夫 ～総合的な学習の時間「税金ってなんだ」の活動を通して～
平成15	名取市立ゆりが丘小学校	松 浦 和 浩	学年ごとの児童の実態に応じた効果的な租税教室のあり方
	岩沼市立玉浦小学校	柴 田 新 二	税に関する興味・関心を高め、主体的に学習に取り組む指導の工夫 ～税についての調べ学習、未来の玉浦を考える活動、道徳を通して～
	亶理町立吉田中学校	小 嶋 幸 生	租税に関する興味・関心を高める指導法の工夫
	山元町立山下第二小学校	佐 藤 孝 志	税の学習を取り入れた総合的な学習の時間の指導の一考察 ～「未来の山元町を考えよう」の活動を通して～
平成16	名取市立増田中学校	渡 邊 義 行	公民の学習における租税への関心を高める指導の工夫
	岩沼市立岩沼北中学校	瀬 成 田 実	税への関心を高め、思考を深める指導法の工夫 ～適切な資料展示や討論活動をとおして～
	亶理町立長瀬小学校	西 澤 勝 雄	社会科学習及び総合的な学習における租税教育の効果的な指導の一考察 ～4年社会科「住みよいくらしをささえる」、5年総合的な学習「わたしたちの亶理町を考えよう」の活動を通して～
	山元町立山下小学校	平 間 正 信	自分らしさを発信する子ども ～学んだことを発信する学習を通して(小学5年生の実践)～
平成17	名取市立関上中学校	大 宮 潤	租税への関心を高める指導法の工夫 ～3年間を見通した租税教育～
	岩沼市立岩沼西小学校	建 入 文 夫	租税について考え、正しく理解させるための指導法の工夫 ～租税に関する社会科の学習を通して～
	亶理町立荒浜中学校	佐 藤 秀 樹	公民としての資質を育てる租税学習の工夫 ～地域住民へのアンケート活動を通して～
	山元町立山下第一小学校	稲 垣 祐 子	税を通して山元町の良さを知り、発信する子どもの育成 ～総合的な学習の時間の活動を通して～
平成18	名取市立館腰小学校	相 原 直 人	税に関心を持ち税金の大切さを考えることのできる児童の育成 ～ぼくらの税金ホームページ作りを通して～
	岩沼市立岩沼西中学校	森 本 直 樹 菅 原 正 弘	公民としての資質の基礎を養う租税学習の工夫 ～3学年公民での継続した学習を通して～
	亶理町立荒浜小学校	塚 口 誠	進んで学習に取り組む児童の育成 ～租税に関する学習を通して～
	山元町立山下中学校	仙 石 直 樹	租税について正しく理解し、主体的に考えることができる生徒の育成 ～3年公民分野における「タックスレポート」づくりを取り入れた学習活動の工夫を通して～

租税教育実践発表一覧(平成19年度～平成25年度) ※平成23,24年度は震災により中断

年 度	学 校 名	担当教諭名	テ ー マ 名
平成19	名取市立那智が丘小学校	大 友 幹 雄	税に関心をもち、税の社会的意義を考えることのできる児童の育成 ～税に関する新聞作りの活動を通して～
	岩沼市立岩沼南小学校	横 山 勉	児童が興味・関心をもつための指導の工夫 ～小学校4年生からの「税に関する学習」を通して～
	亶理町立逢隈中学校	長 田 康 宏	税に対する興味・関心を高める指導法の工夫 ～身近な地域素材の活用を通して～
	山元町立中浜小学校	日 下 泰 憲 西 澤 彰 子	児童の税に対する興味・関心を高めるための指導の工夫 ～総合的な学習の時間「中浜の松ぼっくりから」の実践を通して～
平成20	名取市立第一中学校	小 鴨 幸 生	租税への関心を高める指導法の工夫 ～身近な資料や租税に関する討論活動を通して～
	岩沼市立岩沼中学校	長 澤 裕 司	租税への関心を高め、納税者としての自覚を培う指導の一考察 ～財政上の課題を考えさせる場面の工夫をとおして～
	亶理町立逢隈小学校	高 倉 成 行	税金の役割を理解させるための指導の工夫 ～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	山元町立坂元中学校	堀 内 恵 理 子	税に関心を持ち、主体的に社会とかかわろうとする姿勢の育成 ～3年公民的分野における租税学習を通して～
平成21	山元町立坂元小学校	清 野 政 子	児童が税に対する興味・関心をもつための指導の工夫 ～総合的な学習の時間「税金ってなに」の活動を通して～
	亶理町立亶理中学校	浦 邊 盛 勝	『税に対する興味・関心を高め、発展させる指導法の工夫』～生徒自身の身近な素材の活用を通して～
	岩沼市立岩沼小学校	佐 久 間 秀 和	租税への関心を高める指導の一試み ～小学校6学年社会科「日本の歴史」での税の学習と「租税教室」の実践を通して～
	名取市立第二中学校	丹 野 光 洋	『納税者としての意識を高めるための指導法』 ～租税教室や様々な資料で学んだことを基にした消費税に関するディベートを通して～
平成22	名取市立相互台小学校	大 沼 史 柄	『租税への関心を高めるための指導の工夫』 ～公共施設から税金を考える～
	岩沼市立玉浦中学校	山 田 洋 子	『税の必要性についての意識を高めるための指導法の工夫』～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	亶理町立吉田小学校	渡 辺 英 明	『身近なことから税金の意義や役割を理解させる指導法の工夫』～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	山元町立山下第二小学校	針 生 武 宏	『身近な生活での税に関心をもち、税の大切さを考えることのできる児童の育成』～総合的な学習の時間「山元町の未来を考える」の学習を通して～
平成25	名取市立増田小学校	佐 藤 真 一	『税に対する興味・関心を高めさせる指導の工夫』 ～自ら調べ、主体的に税を考える学習を通して～
	岩沼市立岩沼西小学校	管 野 千 里	『税金の役割と必要性を理解できる児童を育成するための指導の工夫』～小学校6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習を通して～
	亶理町立高屋小学校	小 松 晃	『税金の大切さを考えることのできる児童の育成』 ～総合的な学習の時間「人権福祉」学習-だれもが幸せに生きる町づくりを通して～
	山元町立山下中学校	太 田 侑 吾	『租税への興味・関心を深化させる指導の工夫』 ～山元町の復興に関する取り組みを通して～

租税教育実践発表一覧(平成26年度～)

年 度	学 校 名	担 当 教 諭 名	テ ー マ 名
平成26	名取市立不二が丘小学校	清 野 秀 和	「租税への関心を高めるための指導の工夫」 ～第6学年 総合的な学習の時間「税金について考えよう」の学習を通して～
	岩沼市立岩沼西中学校	阿 部 幸 子	「租税への関心を高め意義や役割を理解させる指導法の工夫」 ～租税教室や身近な資料の活用を通して～
	亶理町立亶理小学校	酒 井 久 美 子	「町民の願いを実現するために税金が果たす役割を理解させる指導の工夫」 ～「総合的な学習の時間」と6学年社会科「わたしたちの願いを実現する政治」の学習との関わりを通して～
	山元町立坂元中学校	渡 邊 淳 一	「将来の納税者としての意識を育む税金学習」
平成27	名取市立関上中学校	荒 川 美 貴	「積極的納税者を育むための指導の工夫」 ～税の使い道についての学習や租税教室の活用を通して～
	岩沼市立岩沼南小学校	丸 谷 由 浩	「未来の望ましい納税者を育てる指導の実践」 ～税金に対する正しい知識を身に付け、正しく納めようとする態度を養う指導を通して～
	亶理町立吉田中学校	妹 尾 文 男	「納税者意識を高める指導の工夫」 ～生徒の疑問を大切に授業づくりと税について考える機会を増やす実践から～
	山元町立坂元小学校	佐 竹 聡 子	「税金の役割を理解し、税金の必要性を感じられる児童の育成」 ～「坂元の復興と税金とのかかわり」を考える学習を通して～
平成28	名取市立下増田小学校	手 塚 英 海	「税に対する知識を深め、健全な納税者を育てる指導の実践」 ～主体的に課題を設定し、探求する学習を通して～
	岩沼市立岩沼中学校	武 田 裕 光	「地方自治の学習を通して租税の意義と役割を理解させる指導の工夫」
	亶理町立長瀬小学校	武 田 清 美	「税に対する興味・関心を高め、税の意義や役割を理解しようとする児童の育成」 ～税について児童自ら課題をもち、調べる活動を展開する学習から～
	山元町立山下第二小学校	渡 部 史 郎	「未来の納税者を育てる指導の一試み」 ～児童の「税」への興味・関心を生かした調べ学習を通して～
平成29	名取市立関上小学校	菅 原 さ と み	「第6学年社会科学学習として行う租税教育のあり方一考察」
	岩沼市立岩沼小学校	三 澤 恵	「税の意義や役割を理解し、政治参加に対する意欲を高める指導の工夫」 ～税金の使い道について考えさせる活動を通して～
	亶理町立荒浜中学校	小 鴨 幸 生	「租税への関心を高めるための指導法の工夫」 ～学び合いを取り入れた指導を通して～
	山元町立山下小学校	森 大 地	「税に対する興味・関心を高め、税への理解を深める指導の工夫」 ～主体的に課題を設定し、自ら調べる活動を通して～

仙台南地区租税教育推進協議会 役員名簿

役 職	構 成 機 関	名 等	氏 名
会 長	岩 沼 市 教 育 委 員 会	教 育 長	百 井 崇
副 会 長	公益社団法人仙台南法人会	会 長	相 澤 十 四 男
	仙 台 南 税 務 署	副 署 長	千 葉 治 彦
常 任 幹 事	仙 台 南 税 務 署	総 務 課 長	高 橋 則 行
幹 事	宮 城 県 仙 台 教 育 事 務 所	所 長	高 橋 正 則
	名 取 市 教 育 委 員 会	学 校 教 育 課 長	及 川 牧
	岩 沼 市 教 育 委 員 会	学 校 教 育 課 長	佐 藤 修 司
	名 取 市 校 長 会 会 長	増 田 中 学 校 長	宮 下 文 憲
	岩 沼 市 校 長 会 会 長	岩 沼 小 学 校 長	佐 藤 崇
	亘 理 町 校 長 会 会 長	亘 理 中 学 校 長	大 石 正 利
	山 元 町 校 長 会 会 長	坂 元 中 学 校 長	成 毛 毅
	仙 台 南 税 務 署 管 内 会 青 色 申 告 会 連 合 会	会 長	猪 股 弘 志
	仙 台 南 間 税 会	会 長	齋 藤 邦 男
	宮 城 県 仙 台 南 県 税 事 務 所	所 長	酒 井 敏 貴
	岩 沼 市	税 務 課 長	伊 藤 正 幸
会 計 監 事	東 北 税 理 士 会 仙 台 南 支 部	支 部 長	千 葉 末 男
	仙 台 南 小 売 酒 販 組 合	理 事 長	藤 原 仁 昭

顧 問	名 取 市	市 長	山 田 司 郎
	岩 沼 市	市 長	菊 地 啓 夫
	亘 理 町	町 長	齋 藤 貞
	山 元 町	町 長	齋 藤 俊 夫
	仙 台 南 税 務 署	署 長	佐 々 木 伸

平成30年3月発行

発行者 仙台南地区租税教育推進協議会

事務局：仙台市太白区柳生2丁目28番2号（仙台南税務署内）

（022）306-8001 内線305



古紙配合率70%再生紙を使用しています